女性キャリア開発研究センター

2018 年度報告書

京都光華女子大学

京都光華女子大学大学院／京都光華女子大学短期大学部

Index

ご挨拶 ································· 01
光華女子学園の概要 ························ 03
センターの役割 ··························· 04

活動報告
Ⅰ　女性のための就業継続支援システムの構築 ···· 05
(1) 在学生対象「職業意識に関するアンケート調査」
(2) 卒業生対象「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」
(3) 卒業生対象「卒業後のキャリアに関するヒアリング調査」

Ⅱ　減災リーダー育成プログラムの開発 ········· 13
(1) 情報収集・事例研究
(2) 減災リーダー育成準備
(3) 妊産婦等福祉避難所設置準備

Ⅲ　女子大学連携のためのネットワーク ·········· 17
(1) ミーティングの開催
(2) 国際女性デーシンポジウムの開催
(3) メディア掲載

Ⅳ　キャリア教育 ························· 21
(1) キャリア教育・キャリア支援
(2) キャリアアドバイザー
(3) 出張講義
(4) インターンシップ
(5) 企業訪問研修
(6) ボランティア
(7) 学Booo

ご挨拶

学校法人 光華女子学園
理事長・学園長
阿部　敏行

時代を超え受け継ぐ校訓「真実心」
今こそ「輝く女性の未来」を導く

光華女子学園は昭和14年、東本願寺の故大谷智子裏方（昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君）の「仏教精神に基づく女子教育の場」を、との願いによって設立された真宗大谷派の宗門関係学園です。

校訓を「真実心」と掲げ、教育の基本を仏教、なかでも親鸞聖人があきらかにされた浄土真宗の教え、すなわち「生かされ生きていることの自覚」による人間形成に置き、向上心（=精進）、潤いの心（=慈悲心）、そして感謝の心、すなわち「光華の心」を大切にする人間の育成に努めております。創立以来79年余、お陰さまで現在では幼稚園から大学・大学院まで、学齢に空隙のない人間教育を行う総合学園として発展してまいりました。

ところで、近年女性の生き方が多様化し、女性に係わる社会的問題が多角的に進展する中、女性の社会での活躍が大いに期待されているのは周知の通りであります。私たちは長年培ってきた本学園ならではの女子教育の理念と人材育成の成果を基軸に、これからの社会に求められる「知性と教養のある輝く女性の未来」を探求するとともに、社会への知の還元と連携を深めつつ、女子教育の研究と発展を目指して、「女性キャリア開発研究センター」を、平成28年４月に開設いたしました。

当センターでは、大学卒業後の女性の就業継続支援のための研究や、全国の女子大学との連携を通じて、女性の働き方や輝く生き方に関する情報を社会に発信するとともに、女性の生涯学習の促進に向けたサポートをしていきたいと考えております。加えて、災害などの非常時においても、特に女性の心身のケアに必要な人材の積極的な派遣や、女子学園ならではの施設の活用など、心身ともに「よりそいどころ」となるべく、そのあり方を検討してまいります。

校訓「真実心」があらわす「慈悲心」、言い換えれば、「おもいやりの心」、「寄り添う心」、「他者への配慮」、「共に支えあう心」は、時代を超えて、現在の殺伐とした心の乾燥社会においても、強く希求されるものであります。創立以来脈々と受け継がれてきた建学の理念に矜恃を持ち、女子の高等教育機関としての社会的責任を果たすためにも、女性キャリア開発研究センターの充実発展に一層の努力をしてまいります。

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部
学長
一郷　正道

「女性キャリア開発研究センター」の役割

昨今の内外情勢を見るにますます分断と亀裂の様相を露呈しているように思えてならない。その理由は自己中心主義が世界的に蔓延しているからに他ならないと言っても過言ではないであろう。自己中心主義は、物事を相対化したり客観化したりできない、乳幼児期の思考様式とされる（『広辞苑』）。この深刻な状況を脱するためには各自が仏教思想の原点である縁起の理――人間は他者との関係の中にしか存在しえない――に目覚めることであると愚考する。その場合「他者」とは眼に見えるもののみならず眼に見えないものを含むすべてのものである。そのすべてのものの働きのおかげによって人間は生かしていただいているのであって、決して自力で生きているわけではないことに、まずは気付くことである。

このような自己に目覚めた女子学生を世の中に送り出すことこそ「女性の輝く社会実現」に必須のことであると考える。お互いが「生かされている存在」であることに気付く時、他者への思いやり、寄り添う心、他者への配慮が自然に生ずるはずである。かかる精神性を身に付けた女性を育成し世に輩出することが、本学の社会的貢献と考える。

かかる女子大生が社会へ出て一段と輝く存在になることを念じて「女性キャリア開発研究センター」を設立して３年が過ぎた。本センターは次のような業務を担っている。

1.女性のキャリア開発に関する研究・教育
2.女性のキャリア開発のための産官学の連携と研究者の支援
3.女子教育に関する教育課程・教育支援策の開発
4.女子教育を実践する教育手法の開発
5.在学生のキャリア教育
6.卒業生を中心とした女性のキャリアの再開発

以上のような業務を推進し、学生には入学から卒業後まで相談に与る。その間に社会人になるための「心・知識・能力＝キャリア」を養成する。就職後、女性なるが故の課題と対峙せざるを得ない状況が発生した時にも就業を継続できるよう、必要な支援を行う

こうして、女性の人生に寄り添えるシステムの開発と構築を図り、女性の輝く社会の発展に貢献したく思っている次第である。

女性キャリア開発研究センター
センター長
加藤　千恵

「女子大学に期待されること」へのチャレンジ

本学に女性のキャリア開発について研究するセンターが開設されて３年が経ちました。今回その活動の記録として本報告書をまとめることができました。関係者の皆さまに御礼申し上げます。

女性キャリア開発研究センターは、その前身であるキャリアセンターのキャリア教育部門が担当していた教育機関としての役割と、新たに付与された研究機関としての役割の双方を期待されています。前者については、インターンシップやボランティア、自由参加型ラーニングコミュニティの運営、セミナーの開催、学生のキャリア相談などに取り組んでまいりました。

そして後者については、女性の就業継続を支援するために必要なシステムの構築を目標に、在学生対象の職業意識調査、本学園教職員対象の職場環境調査、卒業生対象の就業状況調査を実施し、データの収集と分析を行っています。女性たちの就労に対する意識が、子育て退職・再就職型から就業継続型に移行しつつあるなかで、これからの女子大学は社会に出た女性たちに何をするべきか、何ができるのか。多様な仕事、異なるニーズをもつ女性たちに向けて、母校として就業継続のためのサポートを進めてまいります。

また今年度は、男女共同参画視点の減災学の研究をスタートさせました。本学の教育の特色を生かした取組みとして発展させていきたいと考えています。

大学における教育や学生支援のあり方は21世紀に入って様変わりし、一方で女性の働き方の変化が男性の働き方にも影響を与える時代になりました。女子大学が取り組む課題は増えつつあり、本学も含めて多くの女子大学がその社会的役割に気づいているように思います。昨年、本学が京都女子大学、同志社女子大学とともに全国の女子大学に呼びかけた「女子大学連携ネットワーク」に多くの女子大関係者の方々が集ってくださるのは、個々の女子大学で対応するには限界がある課題を共に解いていく時代にきていることを共有し合えるからでしょう。

これからも女性キャリア開発研究センターは、在学生たちが職場の中核を担う2030年代を見据え、高等教育機関として、また女性のための教育をリードする機関として活動を続けてまいります。

光華女子学園の概要

光華女子学園は、京都光華女子大学、京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校、光華小学校、光華幼稚園を設置し、同一キャンパスにすべての校園を配する総合学園として2020年度、創立80周年を迎える。

(1) 沿革

1939(昭和14)年 9月15日	財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
1940(昭和15)年 4月 1日	光華高等女学校開設
1944(昭和19)年 3月11日	光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
1945(昭和20)年 3月29日	高女同窓会「澂清会」発足
1947(昭和22)年 3月15日	女専同窓会「ふかみぐさ」発足
1947(昭和22)年 4月 1日	学制改革により光華中学校開設(光華高女より)
1947(昭和22)年10月10日	光華女子専門学校保健科を生活科に改称
1948(昭和23)年 4月 1日	学制改革により光華高等学校開設(光華高女より)
1950(昭和25)年 4月 1日	光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
1951(昭和26)年 2月28日	学校法人光華女子学園設立認可
1954(昭和29)年 4月17日	光華衣服専門学院開設
1964(昭和39)年 4月 1日	光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置(短大文科を移行)
1965(昭和40)年 4月 1日	光華幼稚園開設
1968(昭和43)年 4月 1日	光華小学校開設
1987(昭和62)年 4月 1日	短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
1989(平成 元)年11月15日	総裁大谷智子裏方還浄(83才)
1991(平成3)年 4月 1日	真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
1993(平成5)年 4月 1日	短期大学、家政科を生活学科に改称
1994(平成6)年 4月 1日	大学、文学部に人間関係学科を開設
1994(平成6)年 11月22日	光華衣服専門学院廃校
1995(平成7)年 4月 1日	短期大学、生活学科に4専攻を設置
1997(平成9)年 4月 1日	短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
1998(平成10)年 4月 1日	光華女子大学大学院開設 文学研究科(修士課程)、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置
2000(平成12)年 4月 1日	光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部生活環境学科に改称 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称 英米文学科を英語英米文学科に改称
2001(平成13)年 4月 1日	光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更 大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科を設置
2002(平成14)年 4月 1日	短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部に人間健康学科を設置
2003(平成15)年 4月 1日	大学、人間関係学部に社会福祉学科を設置
2004(平成16)年 4月 1日	大学院に人間関係学研究科(修士課程)を設置 京都光華女子大学カウンセリングセンター(人間関係学研究科附属施設)開設
2005(平成17)年 4月 1日	京都光華女子大学エクステンションセンター開設
2006(平成18)年 4月 1日	短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定 短期大学部にこども保育学科を設置
2008(平成20)年 4月 1日	大学、人間関係学部を人間科学部に改称 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
2010(平成22)年 4月 1日	大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、健康科学部を設置 人文学部に文学科、心理学科を設置 キャリア形成学部にキャリア形成学科を設置 健康科学部に健康栄養学科を設置
2011(平成23)年 4月 1日	大学、健康科学部に看護学科を設置
2013(平成25)年 4月 1日	大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設 地域連携推進センター・環境教育推進室を設置
2014(平成26)年 4月 1日	大学、健康科学部に医療福祉学科(社会福祉専攻・言語聴覚専攻)、心理学科を開設 大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称
2015(平成27)年 4月 1日	大学院に看護学研究科を設置 短期大学部、こども保育学科を改組、大学、こども教育学部こども教育学科を設置
2016(平成28)年 4月 1日	女性キャリア開発研究センターを開設
2018(平成30)年 4月 1日	大学院に助産学専攻科を設置

(2) キャンパス

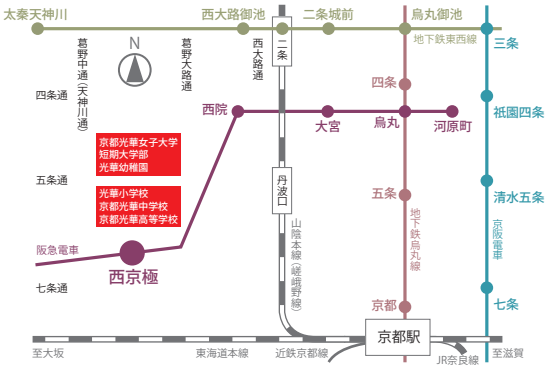
光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスである。西京極キャンパスには、国道9号線(五条通り)を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されている。西京極キャンパスのほか、大原野グラウンド・花の寺グラウンド(西京極キャンパスから車で17分)を有し、運動施設として体育の授業や地域への開放等を行っている。

◆校地面積 <2018年5月1日 現在>

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

◆校舎面積 <2018年5月1日 現在>

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡



センターの役割

Koka's Heart* 女性の人生によりそう

京都光華の女性キャリア開発研究センター

「女性が輝く社会」をめざして

本学は学園創立以来校訓「真実心」のもと、仏教精神に基づく教育で「心豊かで有為なる女性」の育成を実践し、大学短大においては正課教育と併せ、「キャリアセンター」がキャリア教育プログラムや個別相談などを通し、社会に貢献できる人格形成のためのスキルアップの支援と就職支援を推進してきた。長年培ってきた本学園ならではの女子教育の理念と人材育成の成果に加え、これからの社会と女性の関係性にフォーカスする教育を通して「女性の生き方」を探求し、女性のライフコースに沿ったキャリアの育成とその手法を社会に訴求、提言する「女性キャリア開発研究センター」を2016年度（平成28年度）に開設した。

3年目となる2018年度（平成30年度）は、Ⅰ 女性のための就業継続支援システムの研究、Ⅱ 男女共同参画視点の減災リーダー育成プログラムの開発、Ⅲ 女子大学連携のためのネットワーク構築、Ⅳ 在学生のキャリア教育、を行った。

Ⅰ 女性のための就業継続支援システムの研究は、本学卒業生の就業継続促進要因・阻害要因を把握することによって、これから就業する女性たちに必要な支援策を職業別・職種別に構築していくものである。これまでに実施した「在学生の就業意識調査」、「教職員の職場環境調査」から得られた知見も含めて研究を展開させている。

Ⅱ 男女共同参画視点の減災リーダー育成プログラムは、本学の校訓「真実心＝慈悲心」と、本学の学科・専攻の専門性を活かした新たな取組みである。全国的に災害リスクが高まるなか、本学の人的資源・物的資源を活用し減災に取組む手法を開発するために 、自治体、本学の各学科・研究所・センターとの連携を進めている。

Ⅲ 女子大学連携のためのネットワークは、「京都アカデミアフォーラムin丸の内」に参加する京都３女子大学が全国の女子大学に呼びかけ2017年度（平成29年度）にスタートした。女子大学に期待される課題を共有し、男女共同参画社会実現のためのセミナーや情報交換会などを開催し、地元京都はもとより全国レベルでの連携を強化している。

Ⅳ 在学生のキャリア教育として、インターンシップ・ボランティアへの参加促進と単位取得支援、および本学独自の自由参加型ラーニングコミュニティ「学Booo」を実施している。

活動内容

Ⅰ女性のための就業継続支援システムの構築
Ⅱ減災リーダー育成プログラムの開発
Ⅲ女子大学連携のためのネットワーク
Ⅳキャリア教育

Ⅰ 女性のための就業継続支援システムの構築

（1）在学生対象「職業意識に関するアンケート調査」

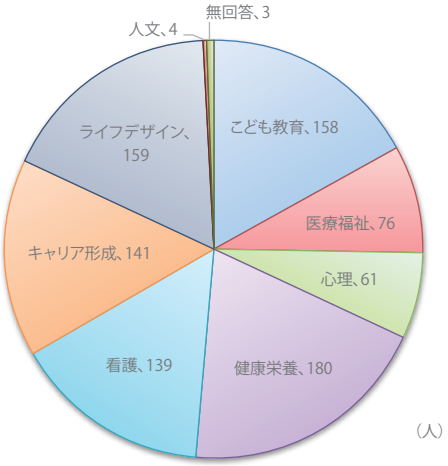
女性キャリア開発研究センターでは、女性の就業継続支援システムの構築に取り組むにあたり、2016年度（全学年対象）と2018年度（1・2年生対象）に在学生の職業意識調査を行った。質問項目は、「女性が職業をもつことについて」、「将来の職業を決めているか」、「性役割分業意識」、「男女共同参画に関する用語の認知度」などである。2018年度調査の集計結果の一部を2016年度調査（内1・2年生のみ）と比較しながら紹介する。

- 調査対象　大学（1・2年生）・短大生（1・2年生）　計1,177名　回収数921　回収率78.2％
- 調査期間　2018年4月

① 回答者の割合（学年）（N=921）

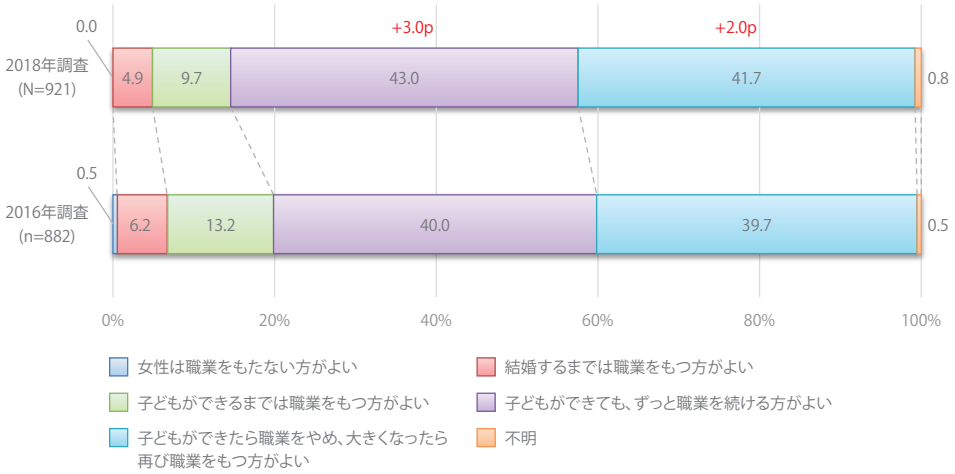
	（人）	（%）
1年生	541	58.7
2年生	380	41.3
計	921	100.0

② 回答者の割合（所属学科）（N=921）



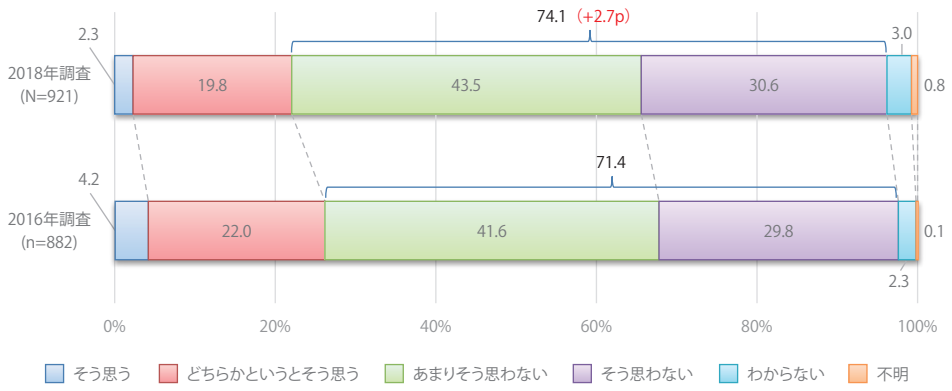
まず、女性が職業をもつことについて、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）と「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（出産退職再就職型）を合わせると、2018年度調査では2016年度調査と比べて、5.0ポイント上昇した（③）。

③ 女性が職業をもつことについての考え方



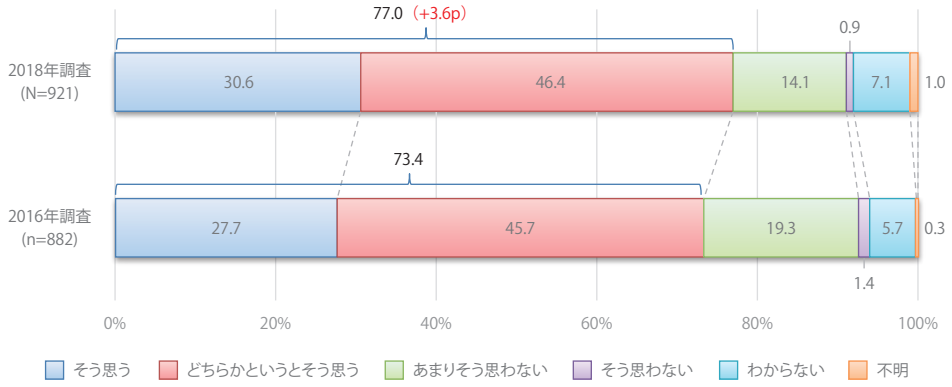
次に、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」については、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した割合が2018年度調査では2016年度調査と比べて、2.7ポイント上昇した（④）。

④ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき



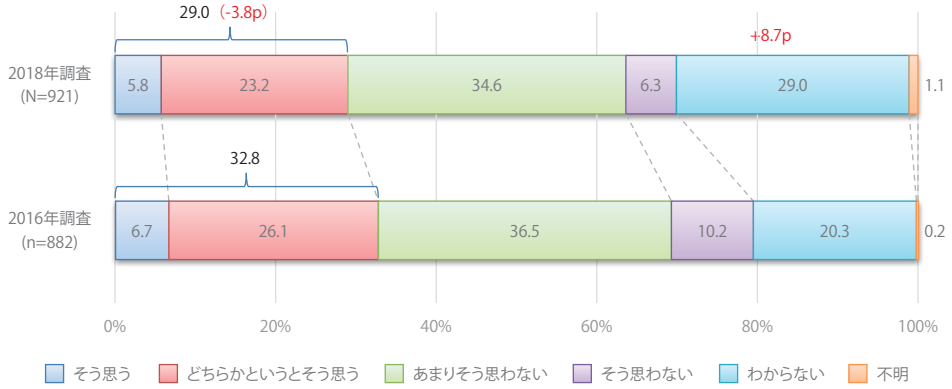
また、「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」については、「そう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した割合が、2018年度調査では2016年度調査と比べて、3.6ポイント上昇した（⑤）。

⑤ 男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい



さらに、「自分は将来、社会的に活躍できると思う」については、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した割合が、2018年度調査では2016年度調査と比べて、3.8ポイント下降し、「わからない」と回答した割合が8.7ポイント上昇した（⑥）。

⑥ 自分は将来、社会的に活躍できると思う



以上の結果から、本学の在学生は、女性が生涯働き続けることを念頭においた職業継続意識や、家庭の性役割意識における男女平等の意識が上昇傾向にあるものの、将来の自分に自信を持てない学生が増加している傾向にあることが明らかとなった。

(2)卒業生対象「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」

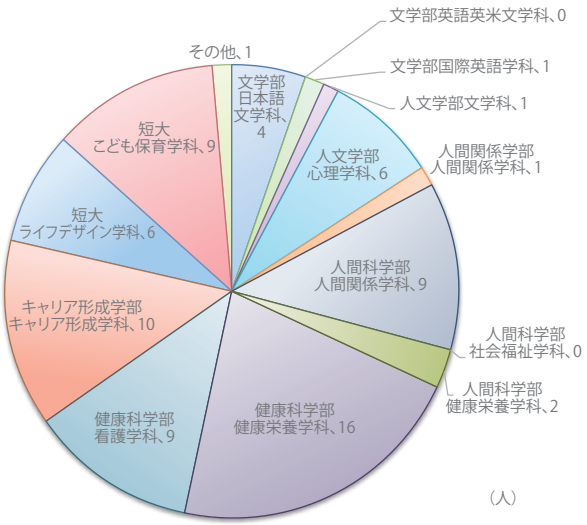
女性キャリア開発研究センターでは、女性の就業継続支援システムの構築に取り組むにあたり、2017年度に卒業生に対してキャリアについてのアンケート調査を行った。質問項目は、「現在の仕事について(就業形態・勤務先・職場環境など)」、「勤務先で必要とされた能力やスキル」、「男女ともに働き続けやすくなるために必要なもの」、「必要だと思う『卒業生への支援』」、「女性が職業をもつことについて」、「性役割分業意識」などである。集計結果の一部を紹介する。

- 調査対象　卒業後2年～5年(2013年3月卒～2016年3月卒)の京都在住(実家含む)・関東圏(東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・静岡)在住の本学卒業生
  計829名　回収数75　回収率9.0%
- 調査期間　2017年12月～2018年1月

① 回答者の割合(学年)(N=75)

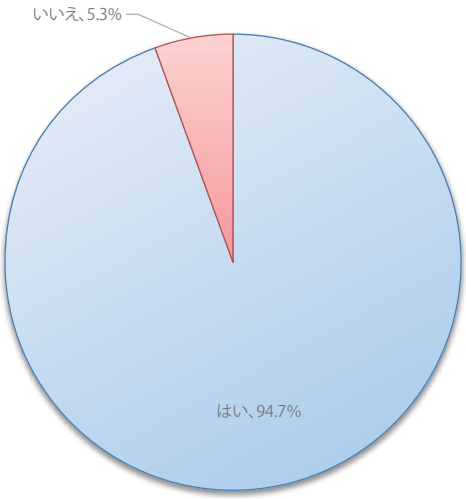
	(人)	(%)
卒業後2年(2016年卒業)	20	26.7
卒業後3年(2015年卒業)	19	25.3
卒業後4年(2014年卒業)	16	21.3
卒業後5年(2013年卒業)	15	20.0
その他	5	6.7
計	75	100.0

② 回答者の割合(所属学科)(N=75)

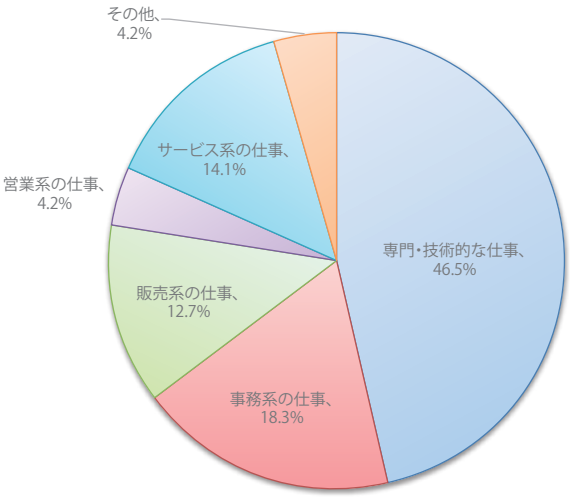


現在、就業中の卒業生が94.7%で(③)、その内の約半数(46.5%)が専門・技術的な仕事に従事していた(④)。

③ 現在、仕事についているか(N=75)



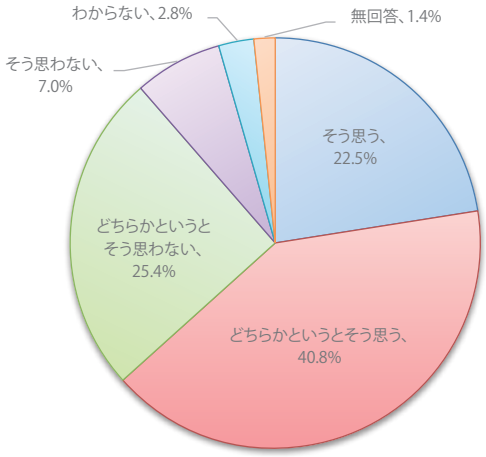
④ 現在の仕事の内容(n=71)※現在、仕事についている人のみ



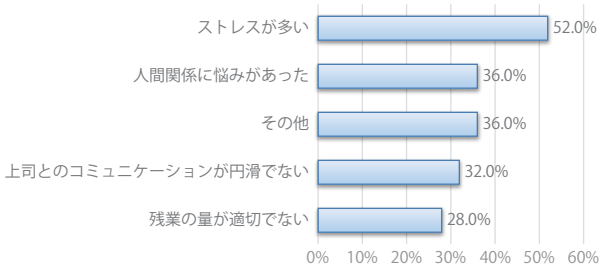
現在就業中の71名のうち、「全体的に働きやすい職場である」について、「そう思う」または「どちらかというそう思う」と回答した割合は63.3％であった（⑤）。

⑥は、初職を退職した25名（33.4％）の退職した理由である。「ストレスが多い」（52.0％）が最も高く、次いで「人間関係に悩みがあった」（36.0％）、「その他」（36.0％）であった。「その他」の中身は、「さらなるスキルアップのため」、「働きたい場所から求人があったため」といったポジティブな理由と「ケガ、体調不良」、「職場の人全体的に能力が低い」といったネガティブな理由のほかに、「雇用契約期間満了」、「結婚に伴い、勤務が不可能なところへ引っ越ししたため」などがあった。本調査において、結婚していた卒業生は4名（5.3％）、子どもがいたのは2名（2.7％）であり、初職退職者に限ると25名中24名は、第一子出産以前にキャリアが断続していた。

⑤ 全体的に働きやすい職場である（n=71）



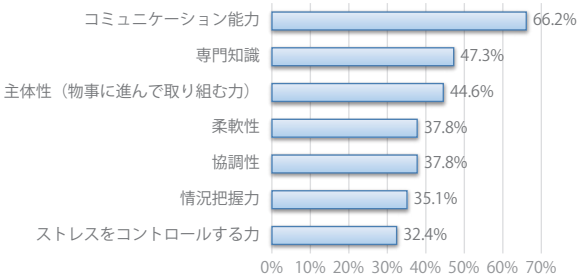
⑥ 退職した理由（n=25）※初職退職者のみ



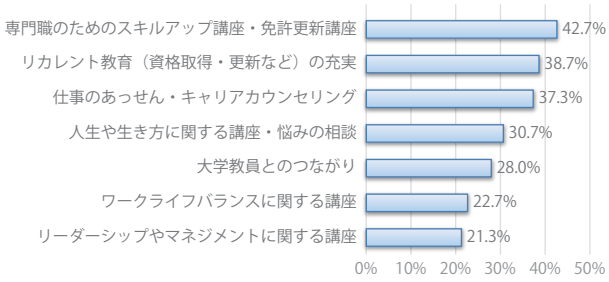
就労経験のある74名に「最初の勤務先で必要とされた能力やスキル」を尋ねたところ、「コミュニケーション能力」に次いで、「専門知識」、「主体性（物事に進んで取り組む力）」、「柔軟性」、「協調性」を選択した人が多かった（⑦）。

また、回答者全員に「必要だと思う『卒業生への支援』」を尋ねたところ、「専門職のためのスキルアップ講座・免許更新講座」や「リカレント教育（資格取得・更新など）の充実」が求められており、卒業してからも学び続けたいという意欲が感じられた（⑧）。一方で、「仕事のあっせん・キャリアカウンセリング」や「人生や生き方に関する講座・悩みの相談」が求められていることから、キャリアを継続していくために適切な相談先が必要であることが示唆された。

⑦ 最初の勤務先で必要とされた能力やスキル（上位７項目）（n=74）※就労経験がある人のみ（複数選択）



⑧ 必要だと思う「卒業生への支援」（上位７項目）（N=75）（複数選択）



以上の結果から、本学の卒業生は、専門・技術的な仕事に従事している割合が高く、卒業後もその専門性を高めたいと考えていることが明らかとなった。一方で、卒業後5年以内に約3割がストレスや悩みによって初職退職に至っていることからも、初職で必要とされる能力やスキルを身につけるプログラムの開発と共に、卒業後も一人ひとりの人生に寄り添う継続的な支援が必要であることが示された。

(3)卒業生対象「卒業後のキャリアに関するヒアリング調査」

目的　女性の就業継続の促進要因と阻害要因を明らかにし、就業継続を支援するための仕組みを構築するうえでの知見を提示する。

対象　前掲アンケート調査の回答者75名のうち、ヒアリング協力の申し出をしていただいた25名(卒業後5年以内、22～28歳)の方々の中から、勤務地や職種等を勘案し15名(本学7専攻より各2～3名)の卒業生の方に対して実施した。

期間　2018年5月～8月(その後2018年10月～12月にかけて研究会を8回実施)

方法　1名につき1時間～2時間程度のヒアリングを実施した。ヒアリングには、原則として有識者・研究者である女性キャリア開発研究委員のうち1名とセンター所員1名が同席した。最初に調査趣旨を説明し、プライバシーに十分配慮する旨を伝え、ヒアリング実施に了解を得た。ヒアリングは、アンケート調査の回答を確認していく形で進めていった。

調査対象者一覧

	卒業学科※	資格	就業形態	業種	職種	勤続年数	退職
Aさん	専門職系	幼稚園教諭	正社員・正職員	教育・学習支援業	幼稚園教諭	2	―
Bさん		幼稚園教諭	正社員・正職員	教育・学習支援業	幼稚園教諭	2	―
Cさん		(社会福祉士取得希望)	正社員・正職員	医療・福祉	事務職	2	―
Dさん		臨床心理士	非正社員・非正職員	教育・学習支援業	スクールカウンセラー	2	経験有
Eさん		管理栄養士	契約社員	その他のサービス	販売職	2	検討中
Fさん		管理栄養士	パート・アルバイト	小売業	販売職	0	経験有/検討中
Gさん		看護師	正社員・正職員	医療・福祉	看護職	2	―
Hさん		看護師	正社員・正職員	教育・学習支援業	大学教員	0	経験有
Iさん	非専門職系	―	正社員・正職員	小売業	販売職	5	―
Jさん		―	正社員・正職員	情報通信業	販売職	3	予定
Kさん		―	正社員・正職員	その他(製造から販売まで一貫して)	販売職	4	―
Lさん		―	正社員・正職員	卸売業	事務職	3	予定
Mさん		―	正社員・正職員	情報通信業	営業補助職	2	―
Nさん		(社会福祉士取得希望)	正社員・正職員	医療・福祉	生活支援員	2	―
Oさん		―	パート・アルバイト	医療・福祉	ケアワーカー	1	経験有

※本学は、4学部7学科を擁している。《こども教育学部》には「こども教育学科」、《健康科学部》には「医療福祉学科(社会福祉専攻、言語聴覚専攻)」、「心理学科」、「健康栄養学科(管理栄養士専攻、健康スポーツ栄養専攻)」、「看護学科」、《キャリア形成学部》には「キャリア形成学科」、《短期大学部》には「ライフデザイン学科」がある。ここでは、こども教育学部と健康科学部を専門職系、それ以外を非専門職系とした。

分析対象の分類

	専門職系	非専門職系
働きやすい職場	A・B・C・E・H	I・K・M・N
働きにくい職場	D・G	J・L・O

※Fは、専門職系から非専門職系へと転職したため、別途分析を行った(結果②参照)。

結果① 就業継続の促進要因と阻害要因

まず、アンケート調査で尋ねた「あなたの仕事について」の24の設問を基にヒアリングを実施し、就業継続の要因を分析した。設問は以下のとおりである。

(1)能力を発揮できる仕事である
(2)責任ある仕事ができる
(3)ポジションに比べて責任が重い
(4)仕事内容は能力や希望に合っている
(5)仕事にやりがいを感じている
(6)所属部署でのジョブローテーションは適切である
(7)残業の量は適切である
(8)業績評価は適切である
(9)昇進・昇格は適切である
(10)給与(諸手当を含む)に納得感がある
(11)定時退出するのに気を遣う
(12)有給休暇をとるのに気を遣う
(13)ストレスが多い
(14)上司とのコミュニケーションは円滑である
(15)部下や同僚とのコミュニケーションは円滑である
(16)仕事の相談ができる人がいる
(17)人間関係に悩みはない
(18)無理をしていないか気遣ってもらえる
(19)仕事のフォロー体制や交代要員に不安はない
(20)働き方の参考となる年長者がいる
(21)福利厚生に満足している
(22)育児休業をとりやすい環境である
(23)介護休業をとりやすい環境である
(24)全体的に働きやすい職場である

※以下、設問として設定していなかった要因については波線を引いた。

1. 働きやすい職場における要因

「全体的に働きやすい職場である」という問いに、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した9名に共通していた促進要因は、以下の4点であった。

☺責任ある仕事ができている
☺仕事にやりがいを感じている
☺仕事の相談ができる人がいる
☺働き方の参考となる年長者がいる

〔働き方の参考となる年長者は〕私の部署の一番上の方で、30代の〔女性の〕方なんです。30代、結構今までってやっぱり結婚したら辞めるとか、子どもできたら辞めるっていうのが昔は結構多かったみたいで、今は30代の方が一番上なんですけど、その方がもう本当にすごくて。もう何もかもがすごくて、もう言語、英語もしゃべれるし、あとは何て言ったらいいんだろう、人間関係の作り方がすごいうまいというか(中略)みんなやる気になる人っていう感じです。

【営業補助職】

(1)専門職系学科卒業生の場合

働きやすい職場であると認識していた専門職系学科卒業生の5名に限ると、共通の促進要因に加えて以下の点が共通していた。

☺能力を発揮できる仕事である

〔今の職場は〕自分がやりたいことがすごいできるので、遊びにしても、制作にしても、先生がやりたいように子どもに教えたらいいよっていう感じなので。私、音楽がすごい好きで、子どもたちに音楽たくさん教えたりとか好きなので、その仕事が能力発揮できるのかなと思いました。

【幼稚園教諭】

そのうち、転職を検討していた1名に限ると、アンケートの設問には設定していなかった、以下の新たな阻害要因が明らかとなった。

☹資格が十分に活かされていない

資格をしょってお店に立ってるから、まだやる気とか、ちょっと今はないですけど入ったとき若干ちやほやされたので、国家資格や、みたいな(中略)じゃあ活かせてるのかなっていう。〔管理栄養士という資格の〕名前だけが結構先走って一人歩きしてる感じは、そういえばあるなって。

【販売職】

(2)非専門職系学科卒業生の場合

働きやすい職場であると認識していた非専門職系学科卒業生の4名に限ると、共通の促進要因に加えて以下の4点が共通していた。

☺残業の量は適切である
☺定時退出するのに気を遣わない
☺上司とのコミュニケーションが円滑である
☺部下や同僚とのコミュニケーションが円滑である

とりあえず先輩とかにはすごく恵まれてたので、人間関係にちょっと支えられたところもあるかなとは思いますね。やっぱり失敗しても、先輩がフォローしてくれたりとか、それなりにいろんなことしてくれたりしたので、人間関係よかったから続けてこられたかなっていうところではありますね。

【販売職】

そのうち、出産後に仕事を辞めると決めていた2名に限ると、共通していた阻害要因は、以下の点であった。

☹有給休暇を取るのに気を遣う

希望休もあるし有給休暇もあるんですけど、シフト制なんでかぶらないようにっていうので〔気を遣います〕。（中略）私、運が悪いみたいで夜勤の日に熱出るんですよ（笑）。夜勤の日に限って体調悪くなったりするんで、夜勤の日になると代われないので、ロキソニン（※解熱鎮痛薬の名称）飲んで出勤するしか。

【生活支援員】

2. 働きにくい職場における要因

「全体的に働きやすい職場である」という問いに、「どちらかというとそう思わない」「そう思わない」と回答した5名に共通していた阻害要因は、以下の3点であった。

☹ポジションに比べて責任が重い

☹有給休暇を取るのに気を遣う

☹ストレスが多い

新人のときに持たしてもらう患者さんとしては重症すぎて。もしこの人に何かあったときに、自分が異変を察知できるだけの能力がなかったら発見が遅れます。その遅れることが患者さんの命に直結してるってことがわかってきだしたとき一番怖かったですね。

【看護職】

（1）専門職系学科卒業生の場合

働きにくい職場であると認識していた専門職系学科卒業生の2名に限ると、共通していた促進要因は、以下の7点であった。

※下線は、働きやすい職場における促進要因との共通点。

☺能力を発揮できる仕事である

☺責任ある仕事ができている

☺仕事内容は能力や希望に合っている

☺仕事にやりがいを感じている

☺給与に納得感がある

☺部下や同僚とのコミュニケーションが円滑である

☺仕事の相談ができる人がいる

加えて、アンケートの設問には設定していなかった、以下2点の新たな促進要因が明らかとなった。

☺夢が実現している

☺後輩のロールモデルになっている

〔仕事を〕やりたくないとは思ったことがなくって、もうこれしかないなっていうふうに、これしかないというか、これが本当にやりたいんだろうなっていうのは、ずっと思ってましたね。（中略）いろいろ見てみても、ここが自分がいたい場所だなというか、自分があるべき場所だなっていう気がして。

【スクールカウンセラー】

（2）非専門職系学科卒業生の場合

働きにくい職場であると認識していた非専門職系学科卒業生の3名に限ると、共通の阻害要因に加えて以下の点が共通していた。

☹定時退出するのに気を遣う

もう上の人がいいよっていうまでなんで、もう全然そんなにすぐに帰れるっていうわけではないですね。ほかの部署であればもう5時半きっかり、はい終わりっていう感じでさって帰らはるところは帰れるんですけど、商品部に関してはお客様がいらっしゃったらそのお客さんが帰るまでずっとい続けるっていうかたち。上の人がもうしびれを切らしてこれ以上残ってたら時間的にもあれかなって思ったら、女の子だけ先帰ってっていう感じで。

【事務職】

そのうち1名は、アンケート回答時からヒアリング実施時までに状況が変わり、「今は働きやすい職場かな」と答えていた。この理由は、異動や人の入れ替わりに伴い**「人間関係に悩みがある」**点が改善されたことで、**「ストレスが多い」**点もなくなったためである。また、元々**「能力を発揮できる仕事である」「責任ある仕事ができている」「仕事にやりがいを感じている」**点も促進要因となっていた。

一方、残りの2名は、ヒアリング実施後に退職に至った。共通していたのは、以下の点である。

☹残業の量は適切でない

最大50〔時間〕とかなってたときもあったんで、忙しいときとか。（中略）店長が残業あまりつかないのと同じ感じで。要するに店舗管理の時間は残業じゃないのでとか、朝準備とかは業務内に含まれないので。

【販売職】

また、アンケート項目にはなかった新たな阻害要因として、以下の点が明らかとなった。

☹自分の成長が感じられない

〔入社半年から後輩指導者となり〕誰かが仕事を覚えるまで、わかってても言わないっていう状態だったんで、それがちょっとしんどくなってくるというか。でも、その状態はあんまり自分にとってメリットがないなっていう。もう少し勉強できる場所があるんじゃないかなと思って（中略）しんどくても知識がついてたりとか、自分で何かステップアップできてるのであれば苦じゃないとは思うんですけど。【販売職】

結果② 退職に至った要因

次に、退職経験者4名を対象に分析を行った。2名の退職した理由は、「さらなるスキルアップのため」と「雇用契約期間満了」であった。残りの2名は仕事に不満を抱えて退職に至り、そのうち1名は転職後資格を活かせていなかった。不満を抱えていた2名に共通していた阻害要因は、以下の2点であった。

※下線は、働きにくい職場における阻害要因との共通点。

☹ストレスが多い

☹上司とのコミュニケーションが円滑でない

一番もうおかしいんじゃないかなと思ったのがやっぱり上司と問題があって。私ら栄養士としては野菜とかやっぱりいっぱい食べてほしいっていう願望があるんですけど、保育士からしたら野菜子ども嫌いやしそんなん食べささんでいいやんみたいな。いや、それはそれはってなって、もうちょっと言い合いみたいな感じになって、もうこんな人の下で働きたくありませんって言って。【管理栄養士職】

私は先輩を信頼できなかったし、上司も信頼できなかったし、同僚も信頼できなかったので協調性がうまく取れなかった。（中略）それがちゃんとできてたら、もしかしたら〔就業継続〕できたかもしれない。実際それで働ける人がいるので（中略）あとは患者さんに頭をつかまれたりだとか殴られても怒らないっていうストレスコントロール力〔が初職では必要でした〕。【看護職】

まとめ

以上、専門職系と非専門職系の両者に最も共通していたのは、**「責任ある仕事ができている」「仕事にやりがいを感じている」**という促進要因と**「ストレスが多い」**という阻害要因であった。一方で、両者で異なる要因も明らかとなった。非専門職系では、休日や仕事を終えた後のプライベートな時間を大切にしたいと考えていたが、専門職系では自己実現を追及していた。就業継続を支援するためには、異なるアプローチが必要であることが明らかとなった。

考察：就業継続を支援するための仕組み

大学ができる就業継続を支援するための仕組みを考察し、以下の3点を進めていくこととした。

卒業生のためのキャリア相談

個々人の就業継続の促進要因や阻害要因について、客観的に分析し、助言できるキャリアアドバイザーを卒業生のために配置する。相談窓口のひとつとして、大学が気軽に来られる場となることや、働きながら転職活動ができるよう支援することが目的である。仕事上の悩みを解決できたり、キャリアチェンジも含めたキャリアアップを検討したりする機会が開かれると考えられる。

ロールモデルの提示

働き方の参考となる年長者がいることや卒業生自身が後輩のロールモデルになることが促進要因となっていたことから、「卒業生交流スペースの開設」および「学Boooの卒業生への開放」を進める。

「卒業生交流スペース」は、当センターの一角に、卒業生の顔写真とそれぞれの就職先の情報や商品、在学生へのメッセージなどを掲示し、卒業生と在学生の接点を作ることが目的である。卒業生にとっては営業先のひとつとしていつでも大学に足を運べるようになるとともに、在学生にとってはOG訪問やインターンシップの機会につながると考えられる。

また、「学Boooの卒業生への開放」は、現在在学生向けに実施している自由参加型の学習グループを卒業生も参加できるようにすることで、相互に学び合う機会をつくることが目的である。

リカレント教育の推進

リカレント教育は、専門職系にとっては、専門知識を更新する機会になるとともに、リーガルリテラシーなど自分の身を守るためのスキルを身につけることができる。また、非専門職系にとっては、ビジネススキルを磨くことによって自己の成長を感じる機会になるとともに、転職によるキャリアアップや退職後の再就職支援になると考えられる。こうした観点から、本学の教育内容を活かした社会人の学び直しを推進したい。

Ⅱ 減災リーダー育成プログラムの開発

（１）情報収集・事例研究

男女共同参画視点の減災リーダー育成プログラムの開発は、本学の校訓「真実心＝慈悲心」と、本学の学科・専攻の専門性を活かした新たな取組である。全国的に災害リスクが高まるなか、自治体、本学の各学科・研究所・センターが連携し、本学の人的資源・物的資源を活用した減災に取り組む手法の開発に向けて研究を進めている。

ヒアリング「避難所の開設・運営について」

日　時：2018年7月10日（火）10：00～11：20
場　所：右京区役所 2階
対象者：右京区役所地域力推進室 総務・防災担当
概　要：本学が右京区にあることから、避難所についてなど、基本的なことから教えていただいた。

事例研究「大谷大学TAT第25便」

日　時：2018年10月26日（金）19：30出発
～10月29日（月）7：30帰着
場　所：宮城県仙台市若林区の東六郷コミュニティ・センター、真宗大谷派東北別院（現地復興支援センター・仙台教務所）　他
宿泊先：真宗大谷派（東本願寺）現地復興支援センター
主催者：大谷大学教職員有志
概　要：大谷大学の教職員有志が学生・教職員の参加者を募り、大谷大学と真宗大谷派（東本願寺）現地復興支援センターの協力のもと東日本大震災復興支援として活動しているTAT（Tomoni Ayumi Tai / Transcending All Together）に参加した。
日　程：10/26（金）19：30　大谷大学バス出発
10/27（土）午前 被災地研修
午後 翌日の炊き出し準備
10/28（日）六郷（仙台市若林区六郷）東部ふるさと交流祭での炊き出し・ミニ縁日／夜にバス出発
10/29（月）7：30　大谷大学バス到着
参加者：大谷大学教職員３名、大谷大学学生13名、本学教職員２名　計18名

参加者の声

当たり前だと思っていることが、実は当たり前ではなく奇跡のようなものだというお話を聴かせて頂きました。
今回の活動でご縁があった方々と同じ時間を、同じ場所で過ごせたことが私にとって奇跡で、それがとても嬉しいです。
（大谷大学4回生／女性）

津波復興祈念資料館「閖上の記憶」
（宮城県名取市閖上）での被災地研修

六郷（仙台市若林区六郷）
東部ふるさと交流祭のミニ縁日

視察「葛野学区自主防災会総合防災訓練」

日　時：2018年11月4日（日）8：40～12：00
場　所：京都市立葛野小学校
主　催：葛野学区自主防災会
概　要：本学が葛野学区にあることから、防災訓練に参加した。炊き出しボランティアとして学生2名も参加した。

炊き出しの様子

講演「命を守る防災対策!～男女共同参画・多様性の視点で災害に備えるために～」

日　時：2018年11月23日(金・祝)13:30～15:30
場　所：ウィングス京都　2階　セミナー室AB
主　催：京都府男女共同参画センターらら京都・京都市男女共同参画センターウィングス京都
講　師：浅野幸子さん(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表／早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員／女性防災ネットワーク・東京呼びかけ人)
概　要：過去の災害から被災時の多様なニーズを学び、家庭や地域での具体的な対策を考えた。

フォーラム「くらしと災害フォーラム2018『女性の直感とまなざし』」

日　時：2018年11月24日(土)12:00～17:00
場　所：ワコールスタディホール京都
主　催：NPO法人Salut(就労継続支援B型事業所サリュ)
登壇者：堂本暁子さん(男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表/前千葉県知事)
岡村美穂子さん(日本民藝館評議員／鈴木大拙館名誉館長)
上田假奈代さん(NPO法人こえとことばとこころの部屋代表／詩人／詩業家)
概　要：「ピンチ」や「崖っぷち」に立たされたとき、それをどのように捉えるか、どのようにチャンスに変換するかをご自身の経験をもとにお話しいただいた。

講座「災害時女性相談サポーター養成講座～被災者に寄り添う(傾聴等)よりよい相談役をめざして～」

日　時：2018年12月8日(土)、15日(土)13:00～16:00
場　所：京都テルサ東館　2階　らら京都
主　催：京都府男女共同参画センターらら京都・京都市男女共同参画センターウィングス京都
講　師：廣瀬幸子さん(カウンセラー)
概　要：災害時に増える女性の不安や悩みを傾聴し、情報提供や専門の相談員につなぐ活動をする「女性相談サポーター」について学んだ。

(2)減災リーダー育成準備

京都府には、「京都学生FAST(Fire And Safety Team)」という府内の大学生消防防災サークルで構成された京都府公認の学生ネットワークがある。大学生の防災意識の向上と消防団の若手団員確保に向けた事業となっており、すでに11大学、約300名の学生がそれぞれの大学で活動している。本学も2019年度の加入に向けて、動き出したところである。

＜京都学生FAST事業の3つの目指すところ＞

■「学生のまち京都」の強みを活かし、若いチカラと発想で防災を盛り上げる!
■学生にとって防災(消防団等)を身近なものにする!
■将来の地域防災リーダーとして活躍する若い人材を育てる!

(京都府HP「大学生消防防災サークル支援事業『京都学生FAST』」より)

ヒアリング「京都学生FASTについて」

日　時：2018年11月14日(水)10:00～11:00
場　所：京都府庁 6階
対象者：府民生活部 防災消防企画課 府民防災担当
概　要：本学が参加を検討している京都学生FASTについて、活動内容など、基本的なことから教えていただいた。

視察「第５回京都市消防団フェスタ」

日　時：2018年11月25日(日)10:00～15:00
場　所：梅小路公園芝生広場
主　催：京都市内各消防団・京都市消防局
概　要：消防団の魅力を発信するためのイベント。京都学生FASTや京都学生消防サポーターのほか、今年は京都府災害派遣福祉チーム(京都DWAT)も参加していた。

視察「京防災フェスタ2018」

日　時：2018年12月9日（日）11：00～16：00

場　所：梅小路公園芝生広場

主　催：京都学生FAST運営委員会

概　要：サークル活動や消防団のPR、府民の防災意識の向上を図るために、消防関係機関や企業、NPO等と連携して実施されたイベント。今年は、「広げよう！防災の輪！～365日防災のまち京都～」をテーマに、普段の生活の中にある身近な防災対策を紹介していた。

学内説明会「FAST第１期生メンバー募集」

日　時：2018年12月18日（火）12：10～12：40

場　所：女性キャリア開発研究センター　セミナールーム

対　象：全学部全学年

参加者：10名

概　要：府民生活部 防災消防企画課 府民防災担当の方からFASTについて説明していただき、第１期生を募集した。

「FAST第１回ミーティング」開催

日　時：2019年1月16日（水）12：10～12：40

場　所：女性キャリア開発研究センター　セミナールーム

対　象：全学部全学年

参加者：6名

概　要：自己紹介と参加動機をシェアし、今後FASTとして活動していきたい内容について確認した。

参加「平成30年度京都学生FAST合同活動報告会及び第4回京都学生FAST防災ネットワーク会議」

日　時：2019年2月19日（火）13：00～17：00

場　所：京都ガーデンパレス　鞍馬の間

対　象：全学部全学年

参加者：6名（学生3名・教職員3名）

概　要：第１部 活動報告会及びネットワーク会議

（１）大学消防防災サークルによる活動報告及び今後の展開

（２）京都学生ＦＡＳＴ運営委員会からの報告

①京防災フェスタ２０１８

②京都学生ＦＡＳＴレベルアップ講習会

③京都府総合防災訓練（避難所運営訓練）

④府内消防団との交流

（３）京都学生ＦＡＳＴ防災ネットワーク関係機関からの提案

第２部 京都学生ＦＡＳＴ合同研修会

内　容：災害エスノグラフィー

（大規模災害（大雨・土砂災害編）の被災者の体験談を通じて、過去の災害を追体験し、被災した際の具体的な状況をイメージし、参加者同士で意見交換を行った。）

講　師：日本赤十字社京都府支部

西田陽祐さん・須上敦史さん

（３）妊産婦等福祉避難所設置準備

本学は災害発生時に、一般の避難所では避難生活が困難で配慮が必要な妊婦、産婦及び乳児（概ね6か月まで）が避難する施設として京都市の「妊産婦等福祉避難所」に指定されている。災害に備え、平時から自助・共助・公助の視点から考える習慣を身につける必要がある。

ヒアリング「京都市妊産婦等福祉避難所について」

日　時：2018年5月18日（金）16：00～17：30

場　所：井門明治安田生命ビル　2階

対象者：京都市子ども若者はぐくみ局
子ども若者未来部 育成推進課

概　要：本学が2015年3月24日に京都市と「妊産婦等福祉避難所の事前指定に関する協定」を締結していることから、具体的な準備等について教えていただいた。

「平成30年度 京都市総合防災訓練妊産婦等福祉避難所運営訓練」開催

日　時：2018年9月1日（土）9：00～11：30

場　所：本学　聞光館1階

概　要：京都市内で地震が発生し、広い範囲で甚大な被害が出ているケースを想定した避難訓練が行われた。あらかじめ定められたシナリオに沿って訓練は行われ、右京区災害対策本部との連絡・連携、妊産婦の受け入れ体制の確認や健康調査が本番さながらに行われた。

＜当日の流れ＞

①準備作業
学生ボランティア6名にシナリオ配布。学生は、妊婦、褥婦、避難者要望徴収係、避難者案内誘導係の役となった。

②京都市から受入れ要請（前日の想定）

③管理者会議（同）

④受入れ決定の返事（同）

⑤妊産婦の受入れ（受付・案内）

⑥妊産婦の受入れ（健康調査）

⑦突然訪問した妊婦の対応を京都市と協議

⑧訓練終了

⑨意見交換会（本学教職員・学生、京都市右京区役所子どもはぐくみ室、京都府助産師会、京都府看護協会、京都看護大学、佛教大学、京都女子大学、龍谷大学、京都府医師会看護専門学校、京都中央看護保健大学校、京都市男女共同参画センターウィングス京都）

視察「跡見学園女子大学　平成30年度　妊産婦・乳児救護所開設訓練」

日　時：2018年9月20日（木）14：30～17：30

場　所：跡見学園女子大学文教キャンパス2号館

主　催：東京都助産師会、文京区、大塚警察署、
跡見学園女子大学

概　要：跡見学園女子大学は、2012年9月に文京区と「災害時における母子救護所の提供に関する協定」を締結しており（全国初の取組み）、以来毎年開設訓練を実施している。受付でスクリーニングを実施するなど、スムーズな運営であった。

Ⅲ　女子大学連携のためのネットワーク

2017年度に開設された「京都アカデミアフォーラムin丸の内」は、京都大学と本学を含む京都の10大学が連携協力して、京都の文化・芸術・科学について学術面から情報発信する拠点として誕生した。そこに参加する京都の３女子大学（本学女性キャリア開発研究センター、京都女子大学　地域連携研究センター、同志社女子大学 女性アクティベーションセンター）が中心となり、全国の女子大学とともに、女子大学が取り組む課題などについて情報交換を行い、連携協力体制を構築していくことになった。

（１）ミーティングの開催

女子大学連携のためのキックオフミーティング

日　時：2018年3月22日（木）15:00～18:00

場　所：京都アカデミアフォーラムin丸の内

タイムテーブル：

15:00 第1部 開会挨拶・開催趣旨・幹事校紹介

15:20 第2部 グループディスカッション

16:20 第3部 ①幹事校からの提案・意見交換

17:00　　②活動内容の決定

17:20 第4部 取り組み紹介等

参加者：全国26大学・２団体より50名

概　要：今後は「女子大学連携ネットワーク」という名称で活動していくことが決まり、その趣旨が確認された。

ネットワーク趣旨

これからの女子大学が取り組む課題について、情報交換を行い、連携協力体制を構築していきます。日本の女子大学が果たす役割を共に考え、語り、発信し、学術的成果を提示するとともに、社会貢献の足がかりとしていきます。

第２回ミーティング

日　時：2018年9月11日（火）14:00～17:00

場　所：京都アカデミアフォーラムin丸の内

テーマ：「女子大学の過去・現在・そして未来へ」

女子大学の変遷をふまえて、現在の課題を議論し、未来について考える。

（１）女子大学の来し方

（２）女子大学の現状と課題

（３）女子大学の未来について考える

タイムテーブル：

14:00 第1部 開催趣旨・幹事校紹介

講演「女子大学の過去・現在、そして未来に向けて」

15:20 第2部 女子大学の現状と課題（分科会）

16:10 第3部 女子大学の未来について考える

参加者：全国25大学・1団体より45名

開催趣旨・幹事校紹介

概　要：「女子大学の過去・現在・そして未来に向けて」をタイトルに、甲南女子大学 高橋真央先生から、女子高等教育の変遷や現状をお話しいただいた。武庫川女子大学教育研究所のデータなどを基に、女子大学数や学部数の推移について説明があり、学科の名称や学びの特色の変遷について分析があった。これまで女子大学が担ってきた役割を振り返り、これからの女子大学の必要性・存在意義について問題提起をいただいた。

甲南女子大学 高橋真央先生

分科会では、リベラルアーツ系、資格・実学系、ミックス系に分かれ、高橋先生のお話しを踏まえて各大学の現状や課題が話し合われ、最後に、各グループで話し合われたことを共有し、意見交換を行った。

分科会

次回のテーマについて意見を募ったところ、大学のガバナンスついて、リカレント教育について、トランスジェンダーの学生の受け入れについてなど、多くの意見があった。参加者一人ひとりがこれからの女子大学について考える機会となり、次回のシンポジウムにもつながるミーティングとなった。

意見交換

（2）国際女性デーシンポジウムの開催

日　時：2019年3月7日（木）13:00～17:00

場　所：本学　聞光館2階　253教室

定　員：100名（要申込）

テーマ：「女子大学の現在、そして未来へ」

タイムテーブル：

13:00 開会の辞

第Ⅰ部 女子大学の未来、三学長と共に

13:05 講演「女性の教育と持続可能な開発目標（SDGs）」
池上清子さん（公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　理事長）

13:35 三学長講演「三学長、女子大学の未来を語る」
京都光華女子大学　学長　一郷　正道
同志社女子大学　学長　加賀　裕郎
京都女子大学　学長　林　忠行

14:00 パネルディスカッション

第Ⅱ部 女子大学の現状と課題（分科会）

15:00 女子大学におけるリカレント教育（日本女子大学・京都女子大学）

15:40 女子大学におけるキャリア教育（同志社女子大学・京都光華女子大学）

16:00 全体討論

16:30～17:00 懇親会

概　要：国際女性デー（3月8日）に合わせて、女子大学における教育について考えた。

（３）メディア掲載

2018年7月30日（月）京都新聞掲載（朝刊・22頁）

光華女大・京女大・同女大など全国ネット

女子大の意義 活発議論

共学志向で校数減 苦境打開へ

キャリア教育考える

[illegible]

（広瀬一隆）

2018年8月29日（水）日本経済新聞掲載（朝刊・27頁）

日本経済新聞　2018年（平成30年）8月29日（水曜日）

「良妻賢母」から自立した女性へ

女子大 キャリア重視の波

実践女子大 リーダー育成に力

昭和女子大 社会人がメンター

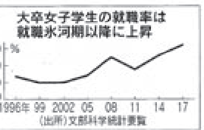
「良妻賢母」型から自立した女性へ。女子大学が結婚・出産を経験しても働き続けるような新たなキャリア観を示し始めた。大学が増えて女子学生の共学志向が強まった結果、女子大の数は20年前のピーク時から2割減っている。今後も学生の数が減っていく中、生き残りをかけて教育の見直しに取り組む。

男女共同参画社会で、自分が果たすミッションとは何か――。実践女子大学が9月初めに開く夏季集中講座「キャリア開発実践論」は学生らにこんな問いを投げかけ、考えさせる。3年生ら20人が2泊3日の合宿に参加して答えを探す。

狙いは次世代の女性リーダー育成だ。社会人講師からリーダーシップなどを学び、後期の学内外の活動で実践を促す。担当する深沢晶久教授は「共学では男子学生に遠慮してリーダーにならない女子学生が少なくない。女子大なら全学生が学園祭や部活などでリーダーになる機会が多い」と、リーダーシップの発揮を期待する。

実践女子大は2017年度にカリキュラム改革に動き、キャリア教育科目を網羅的に組み込んだ。キャリアを考える科目を履修せずに卒業してしまう学生が多かった反省からだ。全学部の授業に組み込み、それぞれ1科目以上の単位取得を卒業要件に課した。卒業後のキャリア設計を1年生から長期に考えさせる。

改革を主導した深沢教授は「女性のキャリアはさらに多様化する」と話す。18年度に開講した講座では、20年に開催予定の東京五輪・パラリンピックにちなんで障害者など多様性への理解を深めるキャリア教育を行う。



女子学生の大学進学率は16年に48・2％と20年前の2倍になったものの、女子大の数は20年前の98校から77校に減少。学生の募集に苦戦し、共学化に踏み切る大学もあった。人気の高い上位の女子大でも入試難易度が下がるなど、成績優秀な学生が集まりにくくなる現象が顕在化した。

逆風の中、女子大の存在意義や共学との差別化をどう打ち出すか。「何もしなければ女子大は緩やかに沈んでいくだけ」と危機感をもつ関係者も少なくない。

各女子大が強化しているのが女性のためのキャリア教育だ。かつては良妻賢母を育成する印象が強かった女子大だが、ここにきて結婚や出産後も働き続けるためのキャリア意識をもたせる取り組みを強化している。

昭和女子大学は卒業生1000人以上の女子大のうち、就職率で8年連続トップ（18年卒は96・7％）を誇る。同大では坂東眞理子理事長兼総長が中心となって、本格的にキャリア教育に注力し始めた。社会人が学生にキャリアプランを助言する「社会人メンター制度」は公募制を採用。就職支援を手厚くした。

メンターになる300人超の登録者のうち、他大学出身者が8割を占め、年代も20～70代まで様々。身近な母親らがキャリア上の参考になりにくくなっており、新たなロールモデルを模索する。

磯野彰彦キャリアセンター長は「結婚したら退職して家庭に入る時代は終わった」といい、「今や60歳、65歳になるまで働き続けるのが当たり前と認識した上で就職活動に取り組んでほしい」と語る。

女子大間で連携を図る動きも出てきた。3月、全国26の女子大からキャリア教育担当者らが集まり「女子大学連携ネットワーク」の初会合を都内で開いた。京都女子大、同志社女子大、京都光華女子大の京都の3女子大が幹事校となり、女性キャリア研究の担当教員らが中心となって意見交換をする。

旗振り役となった、京都光華女子大キャリア形成学部長の加藤千恵教授は「志願者減などで危機感を抱き、ヒントを得ようと有志が集まった。包括協定や単位互換に向けて各校間で連携が広がれば」と期待する。9月にも都内で会合を開く予定だ。

卒業後の起業家育成を支援する女子大も出てきた。同志社女子大は17年度から「女性のための起業家セミナー」を開催。9月から月1、2回開講し、女性起業家の講演を設けて、在学生やOGら25人がビジネスプランのコンテストに参加する。

女子大の学生の中には、男性と競う総合職よりも一般職を志望する学生が依然多い。ただ、メガバンクが一般職を含めた新卒採用を大幅に減らすなど社会情勢は大きく変わってきている。女子大のみならず、学生の意識改革も欠かせなくなっている。

（小柳優太）

女子大連携ネットワークが3月に開いたイベントには26女子大の関係者が集まった（東京都千代田区）

ご意見・情報は電子メール、daigaku@nikkei.co.jp へお寄せください。

2018年9月20日（木） 中日新聞（夕刊・3頁）

女子大の強み 輝かす

全国連携ネット発足

関西発

現代における女子大の意義を考え、女子大ならではの力を高めようと、京都市の京都光華女子、京都女子、同志社女子の三大学の呼び掛けで今春、全国組織「女子大学連携ネットワーク」が発足した。津田塾大（東京）や橋山女学園大（愛知）など関東から九州まで約三十校が集い、広がりをみせている。

呼び掛けたのは京都光華の加藤千恵教授。三月に東京で発足ミーティングを開いた。共学化などが進み、二十年前に全国で九十八校を数えた女子大は、今や二割減の七十七校に。加藤教授は「就職難にたいカリキュラムや文学中心など「良妻賢母」志向の女子大は大学が姿を消したとみる。残った多くは「ニーズに合わせ強みをつくっており、女子大でしかできない教育に取り組んでいる」と話す。

加藤教授がいる京都光華も、人気のある看護師や管理栄養士の育成コースを設けてきた。教員の六割が女性で、出産、育児をこなしつつキャリアを積んだ先輩として卒業後も相談に乗る。「女性だけを対象にさまざまな講座、メニューを用意できるのは女子大の強み」（加藤教授）だ。

入学後に女子大の良さを再発見する人もいる。同志社女子を卒業し、社会人を経て、再び京都光華で学んでいる青野弘美さんらは「女子大は気楽、学業に専念できる」と話す。男子学生慣れでライバル心を感じやすいこともない。

加藤教授は「高度経済成長期の女子大は、日本を動かすエリートを支える「良妻賢母」育成の拠点だった。結果として女性の役割を固定し、男女格差を生み出してきた」と考察する。男女格差は女性の所得の低さ、企業の管理職、女性議員の少なさに現れる。世界経済フォーラムの「ジェンダーギャップ指数」で日本は世界百四十四カ国のうち百十四位と低迷している。

男女格差の解消や、女性リーダー育成、出産や育児で仕事を辞めたOGの就業支援、災害被害者になりやすい女性をどう支えるかなど、参加校の関心は様々。

ネットワークでミーティングを重ね来春、京都市で一般向けシンポジウムを開く。加藤教授は「女子大同士の連携を課題を乗り越えていく力にしたい」と話す。（藤原田秀樹）

「女子大学連携ネットワーク」の発足ミーティングで議論する参加者＝東京都内で（加藤千恵教授提供）

2018年9月21日（金） 中日新聞（びわこ総合・23頁）

23 びわこ総合 2018年（平成30年）9月21日（金曜日）

「女子大学連携ネットワーク」の発足ミーティングで開催する参加者＝東京都内で（加藤教授提供）

女子大の強み 輝かす

全国連携ネット発足

現代における女子大の意義を考え、女子大ならではの力を高めようと、京都市の京都光華女子、京都女子、同志社女子の三大学の呼び掛けで今春、全国組織「女子大学連携ネットワーク」が発足した。津田塾大（東京）や橋山女学園大（愛知）など関東から九州まで約三十校が集い、広がりをみせている。

呼び掛けたのは京都光華の加藤千恵教授。三月に東京で発足ミーティングを開いた。共学化などが進み、二十年前に全国で九十八校を数えた女子大は、今や二割減の七十七校に。加藤教授は「就職難にたいカリキュラムや文学中心など「良妻賢母」志向の女子大は大学が姿を消したとみる。残った多くは「ニーズに合わせ強みをつくっており、女子大でしかできない教育に取り組んでいる」と話す。

加藤教授がいる京都光華も、人気のある看護師や管理栄養士の育成コースを設けてきた。教員の六割が女性で、出産、育児をこなしつつキャリアを積んだ先輩として卒業後も相談に乗る。「女性だけを対象にさまざまな講座、メニューを用意できるのは女子大の強み」（加藤教授）だ。

入学後に女子大の良さを再発見する人もいる。同志社女子を卒業し、社会人を経て、再び京都光華で学んでいる青野弘美さんらは「女子大は気楽、学業に専念できる」と話す。男子学生慣れでライバル心を感じやすいこともない。

加藤教授は「高度経済成長期の女子大は、日本を動かすエリートを支える「良妻賢母」育成の拠点だった。結果として女性の役割を固定し、男女格差を生み出してきた」と考察する。男女格差は女性の所得の低さ、企業の管理職、女性議員の少なさに現れる。世界経済フォーラムの「ジェンダーギャップ指数」で日本は世界百四十四カ国のうち百十四位と低迷している。

男女格差の解消や、女性リーダー育成、出産や育児で仕事を辞めたOGの就業支援、災害被害者になりやすい女性をどう支えるかなど、参加校の関心は様々。

ネットワークでミーティングを重ね来春、京都市で一般向けシンポジウムを開く。加藤教授は「女子大同士の連携を課題を乗り越えていく力にしたい」と話す。（藤原田秀樹）

※「メディア掲載」の記事・写真等は、各新聞社の許諾を得て転載している。

#BalanceforBetter selfie cards

Banner

※2019年3月7日（木）に開催された「国際女性デーシンポジウム」にて使用した。

Ⅳ キャリア教育

（1）キャリア教育・キャリア支援

社会人に必要なこころ・知識・能力を養成する「キャリア教育」を、一人ひとりに合ったアドバイスとプログラムで支援している。さらに同フロアの就職支援センターが、実際の就職活動に向けての「就職支援」を展開、将来に向けて一歩づつ確実な支援体制を準備している。

女性キャリア開発研究センター

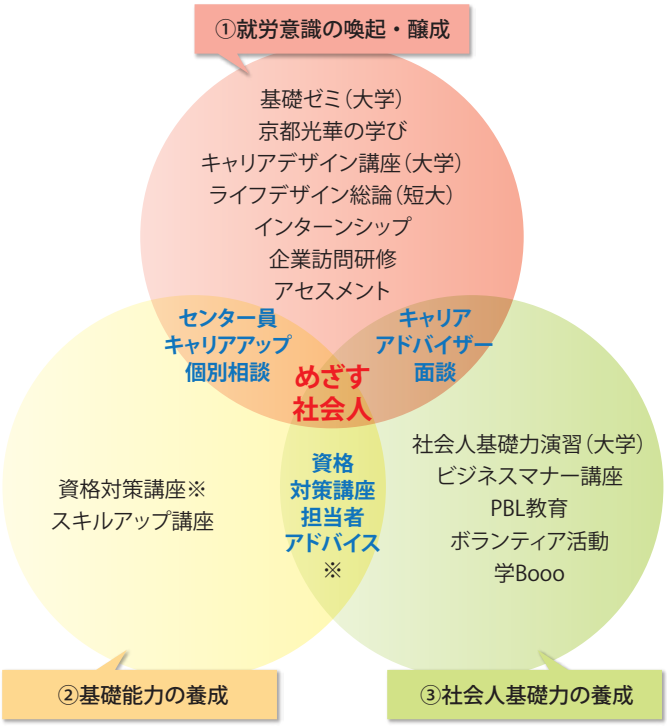
一人ひとりの適性・能力を見出し、きめ細やかなアドバイスと、さまざまなプログラムで、社会に出ていくために必要な意識、社会人の基礎的能力として求められる「社会人基礎力」を養成します。

- キャリア教育ガイダンス
- キャリアアップ相談
- 正課・正課外講座
- キャリア支援プログラム

就職支援センター

- 就職ガイダンス
- 個別就業支援
- 求人情報提供

キャリア教育の3つの目標とプログラム



※資格対策講座は2018年度より、学習ステーションでサポートしています。

応援キャラクター
キラリちゃん

（2）キャリアアドバイザー

個人面談

「キャリア相談カウンター」では、センター員と併せてキャリアアドバイザー（国家資格有資格者）を置き、社会人になるためのビジネスマナーなどを個別に指導し、学生一人ひとりにあった丁寧で的確なアドバイスを行っている。

ビジネスマナー講座

各学科のニーズに合わせて、インターンシップや臨地実習前のビジネスマナー講座も実施している。

月	対象	内容・タイトル
4	健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻 1 年生	充実した学生生活を過ごすために
6	健康科学部健康栄養学科 1 年生	キャリア教育講座～マナーと学生生活について～
7	基礎・教養科目インターンシップ履修者	ビジネスインターンシップ事前マナー学習
10	健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻 1 年生	ビジネス基本マナー
2	健康科学部心理学科 2 年生	キャリア教育講座～学生生活で身に付ける社会人基礎力～

（3）出張講義

全学的なキャリア教育プログラムガイダンスとともに、各学科・学年ごとにオーダーを聞き、センター員が正課授業でさまざまなキャリア講座を実施している。

月	対象	内容・タイトル
4	全学部 1 年生	和室でのマナー
5	短期大学部ライフデザイン学科 1 年生	女性が社会に出るときに知っていてほしいこと
6	健康科学部心理学科 2 年生	女性キャリア・インターンシップについて
10	短期大学部ライフデザイン学科 1 年生	キャリアデザイン講座（外部講師　株式会社マイナビ）
10	短期大学部ライフデザイン学科 1 年生	はたらくときに役立つ、話す力と聞く力（外部講師 キャリアコンサルタント）
10～1	短期大学部ライフデザイン学科 1 年生	ミライ企業図鑑プロジェクト　全8回（外部講師　NPO法人JAE）
11	健康科学部医療福祉学科 1 年生	LGBTとは
12	健康科学部医療福祉学科 3 年生	DVについて
2	健康科学部心理学科 2 年生	キャリア教育講座

（４）インターンシップ

全学科共通科目として正課内で行うインターンシップと併せて、当センターにおいて正課外として提供している。大学コンソーシアム京都との連携をはじめ本学の学生に合った独自の企業・自治体・NPO法人等での就業体験を通して、社会人としての心構えや仕事のやりがい、働くことの意味を学んでいる。ガイダンスは新学期早々の４月（大学コンソーシアム京都連携分を含む）と６月（本学指定企業等）に開催し、インターンシップ先の選択相談から応募書類のアドバイスや添削などの事前準備、実習終了後の振り返り作業の事後フォローまで、一人ひとりに合ったきめ細かなサポートしている。

株式会社カース・キャリアセンター

実習期間：2018年8月20日（月）～8月31日（金）（内、10日間）
事業概要：キャリア教育サポート事業、企業の社員研修、大学生向けのインターンシップやセミナー等

参加者の声

他大学の学生と交流し、コミュニケーション能力をアップさせたいと思い、参加しました。これまでグループディスカッションが苦手で、なかなか発言をすることができませんでしたが、実習中は毎日意見交換の時間があり、だんだん自分の意見を積極的に発言できるようになりました。また、最終日のグループ対抗プレゼン大会ではメンバーと協力しあい、優勝することができました！社会人の方とお話しする機会がたくさんあり、就職活動に対してのモチベーションもあがり、今後は視野を広げてたくさんの企業に目を向け、自分の強みを活かしながら就職活動をしていこうと思います。

（健康科学部心理学科３年生）

特定非営利活動法人ホッピング

実習期間：2018年9月3日（月）～9月10日（月）（内、4日間）
事業概要：子育て支援事業（子育て広場「ドレミひろば」の運営、母親の就労支援事業、子育てイベントの開催　等）
実習部署：ＮＰＯ法人ホッピング事務局、子育て広場「ドレミひろば」

参加者の声

子育てママの再就職支援についてどのようなサポートをしているのか、子育て支援をしているスタッフの方が実際にどのように子育てと仕事を両立しているのかを知りたいと思い、こちらでの実習を希望しました。実習では、お母さんたちのつどいに参加させていただき、サポートを必要としている方から直接お話しを聴くことができました。同じように悩んでいる方と情報を共有することができるこのような場は、子育て中のお母さんたちにとって安心できる場所になっているのだと感じました。今回の経験をこれからの自分の人生に活かしていきたいと思います。

（キャリア形成学部キャリア形成学科２年生）

株式会社図書印刷同朋舎

実習期間：2018年8月20日(月)～8月31日(金)(内、10日間)
事業概要：学術書・書籍・社史・寺史・カレンダー・ポスター・カタログ・パンフレット・手帳等の印刷・製本、自費出版物の編集・印刷　等
受入部署：営業開発部

参加者の声

インターンシップに参加し、営業という仕事はコミュニケーション能力だけでなく、信頼関係を築くことが重要であり、ニュースや新聞などでたくさんの情報を得て、知識を増やし、会話の幅を広げることで、人とのつながりが増えるのだとわかりました。社長から短所は裏返すと長所になるというお話しを聴いて、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。　（キャリア形成学部キャリア形成学科２年生）

事前学習・成果報告会

事前学習では、当センターオリジナルのインターンシップノートを使用し、企業研究や目標設定を行っている。また、キャリアアドバイザーによるビジネスマナー研修では、挨拶や電話対応、名刺の受け取り方など、社会人としての基本的なマナーを習得している。成果報告会では、実習での成果や学びをプレゼンテーションで報告。自身の適性や実習で得た力を再確認し、今後の活動や将来の進路選択に役立てている。

（５）企業訪問研修

ホテルなどを訪問し、一般には立ち入れない現場の見学や働く人の声を聞くことから、社会人の心構えや責任感を養い、自身の将来設計に役立てることを目的としている。京都ならではの一流ホテルや料理旅館などで、実際にコース料理・懐石料理をいただきながらテーブルマナー・作法の意味を学んだり、日本が世界に誇るトップクラスのおもてなしのこころを伺ったりと貴重な体験を通して、精神性も養っている。

株式会社Pacific Diner Service

日　時：2018年8月7日(火)11:30～18:00
内　容：テーブルマナー研修、スマイル研修、館内見学

参加者の声

テーブルマナー研修では、コース料理を食べながら一般的なテーブルマナーに加え、結婚式でのマナーについても学びました。また、グループワークではマナーとエチケットの違いについて各グループで意見交換をしました。
スマイル研修では、お客様を幸せにするためにいつでもお客様を第一に考え行動しているおもてなしの心について学び、笑顔の大切さや笑顔のトレーニング方法を知ることができました。研修を活かして、アルバイト先でも実践していこうと思います。　（健康科学部健康栄養学科２年生）

（6）ボランティア

誰かの役に立つことの喜びを通して、心豊かな人間性を養います。受入先での業務と併せて、「働くことの意義・価値」を学ぶ貴重な機会です。学生一人ひとりに合ったボランティア活動への参加を勧めています。

右京ブロック児童館まつり

日　時：2018年5月19日（土）10:00～15:00

場　所：右京ふれあい文化会館および太秦安井公園芝生広場・土の広場

概　要：右京区にある全児童館15館が、地域の各種団体や保護者の方と協力し子どものためのおまつりが年に一度、右京区の小学校を会場として開催されており、毎年ボランティアスタッフとして本学の学生も参加している。

参加者：13名

参加者の声

私はフェイスペイントのコーナーで、顔や手にマークを描いたり、ソーラーカーのコーナーで、受付や案内をしました。普段、年長さん年中さんくらいの子やその保護者の方と話す機会がないのでとても緊張しました。質問されたときは、すぐに担当の方に聞いて対応していました。ボランティアをするにあたって、相手の立場に立ち、何が気になるだろうか、と想像して行動すればもっとスムーズにできるということを学びました。

（健康科学部医療福祉学科1年生）

NPO法人つみきの会

日　時：2018年6月3日（日）12:30～17:00

場　所：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）

概　要：NPO法人つみきの会は、自閉症の療育法としてのABA（応用行動分析、特にABA早期家庭療育）に取り組む親と療育関係者のための会である。ボランティアは、自閉症の親の会の勉強会の間、別室で自閉症児（2～7歳）とその兄弟児の面倒をみたり、遊び相手になる。

参加者：5名

参加者の声

子どもたちとは基本的にマンツーマンで関わります。私は２歳児を担当しました。最初は目を合わすことも難しく、なかなか仲良くなれませんでしたが、おもちゃで一緒に遊んでいるうちに少しずつ心を開いてくれるようになり、最後は膝の上にのって遊んでくれるほど懐いてくれたので、とても嬉しかったです。スタッフの方から子どもたちとの関わり方について事前にアドバイスをいただいていたので、安心して活動することができました。

（キャリア形成学部キャリア形成学科2年生）

虹色アート

日　時：9月29日（土）10:00～14:30

場　所：BiVi二条　北側特別会場

概　要：アートと触れ合う場を提供している「虹色アート」の取り組みに参加し、「描く」「作る」「作品を見る」「考える」ことの楽しさ、心にあるものを形にして人に伝える喜びや達成感を経験するワークショップを行った。スマートボールの制作や透明のボードに自由に落書きするなど、子どもたちと楽しく共同制作を行った。

参加者：2名

参加者の声

最初、人気のなかったゲームがあり、そのゲームにも関心を持ってもらおうと、私が少し工夫をしたところ、それをきっかけに子どもたちが集まり、自らゲームをアレンジし始め、新しい遊びが生まれていきました。外から様子を見ているのではなく、子どもたちと同じ目線に立ち、一緒に取り組むことが大切だということを今回のワークショップを通して学びました。

（健康科学部医療福祉学科3年生）

西院ふれあい食堂

日　時：毎月第2土曜日　10:00～14:00

場　所：在日大韓基督教会　京都教会

概　要：健康科学部医療福祉学科の学生を中心に活動に参加しており、配膳のお手伝いやおやつのベビーカステラ作り、食事を終えた子どもたちと絵本やゲームで交流するなど地域の方・他大学からのボランティアスタッフと役割分担しながら活動している。毎回200名近くの方が来場する。

参加者：毎月4～5名

参加者の声

西院ふれあい食堂の開設当初からボランティアスタッフとして参加しています。当初は隣の児童館に遊びに来た子どもたちが中心でしたが、最近は保護者の方や地域の方も増え、今では毎回たくさんの方が食事を食べに来てくださいます。活動後には必ずボランティアスタッフにアンケートを取り、気になったことや改善点を共有し合うようにしています。また、他大学の学生や地域のボランティアの方とアイデアを出し合い、季節に合わせたイベントや食後のデザートなども考えています。みんなが楽しくわくわくするような子ども食堂になるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。

（健康科学部医療福祉学科３年生）

京都マラソン給水ボランティア

日　時：2019年2月17日（日）6時～12時

場　所：第一給水所（4.5km地点、桂原堤）

概　要：京都マラソンのランナー16,000人を支えるボランティアとして、2015年度から毎年たくさんの学生が活動に参加している。本学は毎年、嵐山・嵯峨ブロックを担当し、ランナーにとって最初の給水ポイントである第一給水所を担う。案内・誘導、給水、コース（沿道）の整理など各チームに分かれ業務に従事する。朝6時に学校へ集合し、バスで現地に向かうため、学内に前泊する学生もいる。

参加者：48名

参加者の声

マラソン大会のボランティアに参加するのは今回が初めてだったので、前日の夜は不安でいっぱいでした。当日は早朝からの活動で、準備の間はとても寒かったのですが、大会が始まり、ランナーの方が第一給水所に来てからは沿道も活気づき、不思議と心も身体も暖かくなりました。手を伸ばしてくれるランナーの方に水を手渡そうと思いましたが、スピードが速いため水がこぼれてしまうので、コップにあまりたくさん水を注がないようにするなど工夫をしました。ランナーとして参加していた親戚にも水を渡すことができ、とてもいい思い出になりました。

（2017年度参加　健康科学部健康栄養学科2年生）

2017年度の様子

（7）学Booo

教職員の提案により募集する通年・前期・後期のラーニングコミュニティ、通称『学Booo（まなぶー）』は、自由参加型の学習グループである。学生が自分の興味や関心のあるテーマを選択し、同じ興味を持った他学年・他学科の学生や教職員とともに、少人数グループで定期的に集まり学習に取り組んでいる。アドバイザーである教職員とともに、学生が中心となって積極的に活動し、座学型、体験型では自分磨きのために、PBL 型では地域連携や社会貢献、企業の商品開発にも参画している。

※以下は、各学Booo担当者からの報告。

通年 ● 座学型 | お金を学Booo

人生の夢や目標をかなえるために総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を「ファイナンシャル・プランニング」といいます。ファイナンシャル・プランニングには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度など幅広い知識が必要になります。これらの知識を備え、相談者の夢や目標がかなうように一緒に考え、サポートする専門家が、FP（ファイナンシャル・プランナー）です。この学Booooでは、お金の事を楽しく学びながら、最終的には、ファイナンシャルプランナー3級技能検定（日本FP 協会）への合格を目指します。

担　当：高野　拓樹（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：11 名

Voice

学生の立場では、まだまだ実体験として馴染みのない内容が多く出てくるのですが、年金や住宅ローンなど、将来必ず役に立つことを学ぶことができました。また、後半はFP3級の過去問を中心に繰り返し解いています。最初に比べるとずいぶん点数も上がってきていて、合格が近づいてきた気がしています。1月末には本番試験があります。1年間頑張って勉強してきた成果が出せるように頑張ります。

（キャリア形成学部キャリア形成学科1年生）

通年 ● 座学型 | レインボープロジェクト　～多職種を知ろう～

Voice

レインボープロジェクトでは、学科・学年を問わず、興味を持った人が集まり、互いの学びを共有しています。他学科ではこんなことを勉強しているんだ！と知ることは大変面白く、滅多にない機会です。私もこのプロジェクトを通じて、健康スポーツ栄養専攻の魅力を再確認し、4年間の学びを振り返ることが出来ました。それぞれの専門知識を織り交ぜながら、現場でどのように活かすのか考えることは将来大いに役立つ経験だと思います。

（健康科学部健康栄養学科4年生）

レインボープロジェクトは、2016年度、医療・福祉を学ぶ学生が中心となり、それぞれが目指す職種について理解を深め、多面的な物事の見方を学ぶと同時に、専門職を目指す学生同士の異種間の繋がりの創出を目指し、自発的に立ち上げた活動である。2017年度には「学Booo」の一つとなり、全学科の学生がそれぞれの専門領域の枠を超え、学びを通して連携を深め合う取り組みをしている。2018年度には、3 回のワークショップを企画、開催している。

担　当：小澤　千晶（キャリア形成学部キャリア形成学科）
　　塩崎　正司（学習ステーション）
参加者：14名

	実施日	テーマ	参加者
1	5月16日	看護学科の学びを知ろう～実習を通して考えた他職種連携～	25名
2	6月27日	コミュニケーションに障害がある人の支援	15名
3	11月18日	健スポの学びを知ろう～知って！やって！楽しい運動！！～	20名（学外含む）

通年 ● 座学型 読書サークル・ビブリオフィリア

読書サークル・ビブリオフィリアは、読書が好きな人やこれから本を読んでみたい人が出会い、学科学年の垣根を越えて本について語り合うサークルである。活動は月におよそ1回である。前期の活動内容は、メンバーが好きな本を紹介しあう「何でも読書会」、課題図書を読む「プラトン『ソクラテスの弁明』を読む」、「青野浩美さんの『わたし"前例"をつくります』を読む」。後期は、メンバーが好きな本を紹介しあい課題図書を決める「何でも読書会」を2回、課題図書を読む「プラトン『クリトン』を読む」を2回、「『現代語訳　学問のすすめ』を読む」と「カフカ『変身』を読む」を各1回実施した。6学科の3学年からメンバーが集まったほか、教員や図書館職員の特別参加もあり、知的好奇心のある学生に貴重な交流の場を提供することができた。

担　当：藤田　大雪（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：15名

Voice

ビブリオフィリアは、他学科・他学年の人と本について自由に話し合えるので、新しい視点や考え方をより深めることに繋がります。課題となっている本や、みんなで選んだ読みたい本を無料で手に入れることができるのが、本好きにはたまらなく魅力的です。月一回の集まりなので、勉強の負担になることもなく、短い時間の中でも穏やかで充実した時を過ごすことができています。雑談も交えたアットホームな雰囲気なので、仲のいい人もすぐに出来て、とても楽しんで活動しています。

（健康科学部看護学科2年生）

通年 ● PBL型 京しかミーツ

Voice

今年度は地域イベント等で鹿肉巻きおにぎりを作った。美味しく出来上がったが、少人数で大量に作るには向いていない料理だと作る中で学んだ。次年度は調理作業の効率を考えた美味しい鹿肉料理を作りたい。また、光庵とのコラボや京北地域での子供向けワークショップなど初めての活動もしてきた。これらを通してより多くの人に鹿肉の美味しさなどを伝えることができたと考える。新しい活動の企画や準備は時間がかかり、難しいものだと学ぶことができた。どの活動も楽しく行うことができてよかったと思う。

（健康科学部健康栄養学科3年生）

京しかミーツは右京区京北地域を中心に、林業や農業に被害を及ぼすために駆除された鹿の有効活用を目的に2013年から活動しており、現在メンバーは10人である。毎年、右京区民ふれあいフェスティバルをはじめ地域のイベントに積極的に参加して自分たちで考えた鹿肉メニューを販売し、多くの人に鹿肉のおいしさを知ってもらおうと普及を進めてきた。また、環境と鹿肉料理を考える講習会のほかにも、京都滋賀学生ジビエ料理コンテスト入賞、一日カフェの開店、光庵とのコラボ企画の鹿丼の販売、子ども向け鹿肉のソーセージ作りワークショップの開催など、いろいろな活動を行っている。毎年新しい企画を計画しながら地域の方と交流する中から、自分たちの活動の意味を再確認し、調理や栄養の知識、環境問題、京北地域の問題、チームワークの大切さなどを共感している。もちろん、おいしい鹿肉料理が食べられることが一番の楽しみである。

担　当：濵田　明美（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：10名

通年 ● PBL型 KOKA☆オレンジサポーターズ

右京区及び近隣の施設におけるデイサービス、認知症対応型カフェ等を見学し、高齢者・障がい者に対する「食」支援の現状や多職種の連携について学ぶとともに、食べる機能の維持の啓発など、学生にできる支援を行うことを目的としています。また、高齢者や障がい者の方にも飲み込みやすいように開発された「やわらか和菓子」の新商品の開発に参加し、紹介・提供をイベントのなかで行っています。昨年度より、右京区地域介護予防推進センターの協力により、近隣の介護予防自主グループでもイベントを実施しています。また、今年度からは、大学に近隣のシニア世代の方々をお招きして行う「KOKA☆オレンジサロン」を開催しています。

担　当：関　道子（健康科学部医療福祉学科）
　　藤澤　克彦（健康科学部健康栄養学科）
　　中平　みわ（健康科学部看護学科）
参加者：24名

Voice

この活動では、授業で学んだことを活かした活動があり、普段の大学生活では関わることのない仲間にも出会うことができます。先輩後輩が学科を越えて、共に活動する機会はここしかありません。他にも、イベントに伺ってお会いしたり、サロンに来てくださる方々との交流は、普段の授業では決して学ぶことができない貴重な経験です。この活動を通して学んだことは確かに私たちの力になっています。

（健康科学部医療福祉学科2年生）

通年 ● PBL型 政治や選挙を身近にプロジェクト ACT

2018年度は、4月8日に実施された京都府知事選挙の啓発活動から始めました。啓発活動は、①スタッフ学生が自らデザインしたポスターやホームページよる選挙広報と、②選挙の争点や判断材料を外部有識者のリレー講座（勉強会）で学生に提供しました。学期の始まりと選挙日程が重なったため、スタッフの学生は企画運営と集客に大変苦労しましたが、この取り組みは、京都市選挙管理委員会の「啓発活動支援事業」に採択され、さらには京都新聞などの取材もあり、社会的には高く評価されました。啓発活動の際の課題（苦労した企画運営と集客など）をどのように克服するかは、後期の研究テーマとなりました。その研究成果はホームページにアップしていますので、ぜひご覧ください。

ホームページ ▶ https://www.act-koka.com/

担　当：乾　明紀（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：3名

Voice

今年度の活動では、京都府府知事選挙の啓発活動を行いました。その際の選挙に対して興味のない学生に向けた広報活動が難しく感じました。具体的には、SNSを利用したイベント広告や、イベントに来られなかった学生が閲覧できるようにホームページを立ち上げましたが、閲覧者数を増やすことが難しかったです。後期に講師の方から客観的な評価をもらいました。講師の方から「HP更新し続けることで見てもらえるようになる」、「写真を載せることで親近感が沸く」とアドバイスを頂きました。今年度の活動から、他者に働きかける難しさを学ぶことができました。

（キャリア形成学部キャリア形成学科3年生）

通年 ● PBL型 学生広報プロジェクトチーム Ane Mone

Voice

大学の広報物がどのように作られているかを一から知ることができました。そして、自分の書いたコメントや写真が実際に大学のSNSに掲載されたときは、自分の作ったものが世に出ることの面白さや、責任の重さを感じました。文章校正をしていただいた際に職員の方から、どんな風に受け取ってほしいのかを考えて書くと良いというアドバイスをいただき、自分にとってとても勉強になっています。

（キャリア形成学部キャリア形成学科2年生）

学生広報プロジェクトチーム「AneMone」では、京都光華女子大学の魅力を学生ならではの視点から発信し大学の PR につなげること、また、マスコミ業界や広報の仕事に興味をもつ学生のために、広報の基礎的な知識や文章力の向上を図ることを目的に活動している。具体的には、写真の撮り方や、取材上の配慮すべき点など、広報マンとしての基礎を学びながら、実際に本学公式SNSを更新したり、本学が発行している広報物への意見を出し合ったり、在学生向けの冊子制作等を行っている。その他にも、メンバー同士、「なぜ京都光華に入学しようと思ったか」、「京都光華の良いところ」などを取材し合い、文章を作成するなど、実際の取材の方法や、流れも学んでいる。

担　当：松浦　敬人（入学・広報センター）
　　村井　伸吾（入学・広報センター）
　　渡辺　恵美（入学・広報センター）
参加者：7名

後期 ● PBL型 目指せ！マスコミ就職　～業界人と語ろう～

本「学Booo」はマスコミに興味があり、マスコミへの就職を考えている学生に向けての活動を行っている。1回目は、学Booo担当教員がインターネットラジオに出演する機会があり、打合せから実際の収録まで立ち会った。オマケとしてOAで自己紹介する機会にも恵まれた。2回目以降はマスコミ業界で働く女性をゲストに迎え、和気あいあいとした雰囲気の中で座談会を行った。2回目のゲストは自ら企画を立ち上げ、出版社に持ち込み出版までを行う田中稲氏、3回目はテレビ番組の中で披露する料理を作るフードコーディネーターの廣瀬雅子氏であった。メンバーはこの座談会を通して自らの将来を考えるきっかけとしている。

担　当：鹿島　我（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：4名

Voice

私はラジオと関わる仕事に興味があり、この「目指せ！マスコミ就職！～業界人と語ろう～」の活動に参加しました。第一回目の活動では鹿島先生のお知り合いである、さがわりんさんのラジオ番組にお邪魔し、打ち合わせから収録の様子まで実際のスタジオに入って見学させて頂きました。さがわさんのご好意で私たちの自己紹介もさせて下さり貴重な経験をさせて頂きました。収録後には質疑応答の時間もとって下さり実際にラジオの現場で働かせている方のお話をお聞きし、現場を見学させて頂いて、改めてラジオの魅力を知ることが出来ました！

（短期大学部ライフデザイン学科1年生）

通年 ● 体験・実習型 | KYOTOユニバーサルデザイン・ガイドマップの作成

日本では少子高齢化が進み、ますます全ての人が協力しあって豊かな生活をおくる共生社会の実現が必要になってきました。そのような中、全ての人にとって利用しやすいユニバーサルデザインはその実現のために大きく貢献できるはずです。私たちは、皆が共通して必要なバス停、タクシー乗場、ATM、公衆電話、郵便ポスト、多目的トイレ、AEDなどの位置、それに歩道幅を記載した、「KYOTOユニバーサルデザイン・ガイドマップ」を作成しました。Vol.1は、河原町、烏丸など四条通沿いの繁華街。Vol.2は、京都の表玄関とも言える京都駅とその周辺を対象にしています。Vol.3は、京都の観光スポットを対象に、現在、調査・編集中です。このガイドマップは、市内観光案内所、区役所、図書館、ホテルなど宿泊施設、デパートなどの商業施設案内カウンターなどに配架されている他、我々自身も街頭配布をしています。これらの啓蒙活動は、NHKニュースをはじめ、FM放送、読売・産経・京都新聞、情報誌などに取り上げられ、大阪・兵庫・奈良などの近隣はもとより、東京などからも問い合わせが寄せられています。また、京都府立京都学・歴彩館にガイドマップが収蔵されました。

担　当：井川　啓（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：10名

Voice

天候が悪かったり、施設図面がセキュリティの関係で提供してもらえなかったり、長期にわたる調査はたいへんなことも多かったですが、その分出来上がったときは喜びを胸いっぱい感じることができます。このガイドマップをつくったおかげで、京都市主催セミナーへのお誘いなど、学外の交流も増え、とても良い経験ができています。京都をもっと魅力のある街にしていくために、この活動はこれからも続けていきます。

（健康科学部医療福祉学科3年生）

通年 ● 体験・実習型 | 大学間連携リーダーシップ・フォロワーシップ研究会　～光華リーダーズスクール～

本学は、「西日本学生リーダーズ・スクール　UNGL」（University Network for Global Leadership Development in West Japan）に連携校として参加しており、学Booo活動では、連携校の活動について情報共有することで「リーダーシップ・フォロワーシップ」を学び、体験することを目的としている。具体的な活動としては、学生が興味を持ったテーマについて外部講師を招聘し、他大学の学生や地域の人を招いた啓発セミナーの企画・実施、学生会中央委員会と連携した学内イベント「七夕まつり」や「スポーツ大会」の運営に関わることでリーダーシップを体験した。また、他大学の取り組み調査として「女子大生フォーラム」に参加し、今後の活動の参考とした。

担　当：吉田　咲子（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：13名

Voice

KLSでの活動を通して、さまざまな刺激を受けることができました。他大学と行うリーダーシップ研修に参加した際に、コミュニケーションを行うことの大切さや、チームで一つになって物事に取り組むことの大切さを学ぶことができました。またリーダーシップとは、「みんなを引っ張っていく力」だけでなく、「相手の立場になって考えること」「仲間に寄り添って支えること」などがあって生まれるものなのだと知ることができました。「リーダーシップ」というと硬く思われるかもしれませんが、KLSでは楽しみながら学ぶことができます。

（キャリア形成学部キャリア形成学科２年生）

通年 ● 体験・実習型 | くりえいていぶ　～Creative～

Voice

一人では出来ないことでも、みんなで取り組めば出来ること、さらに楽しさも喜びも増えることを実感しました。あかね祭の出店も、単純にやりたいことをやるのではなく、チームとしての目標を決めて取り組むことで、ミーティングや準備の大変さ、成功させる難しさも学ぶことができました。授業とは違う友達の新たな一面も発見できました。

（短期大学部ライフデザイン学科１年生）

アイディアをカタチにして、実現させる学Boooです。参加メンバーで、日常的な授業やサークルでは実現できていないような活動を考え、その企画立案からプロモーション、運営までの一連の活動を行います。英語上達のための勉強会や、他の学Boooと一緒に運動会の開催、あかね祭への出店などに取り組みました。

「こういうことをやりたい、成し遂げたい」、しかも「ひとりではなくチームで」、さらに「この活動を通じてどのような能力を高めたい」という思いのもと、それを実現させるために、メンバーで必要なアクションを考えて行動していきました。活動を通じて、コミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップといった社会から求められている幅広い「力」を身につけることもできました。

担　当：小山　理子（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：6名

通年 ● 体験・実習型 | ピアノを弾いてみよう！

学Booo『ピアノを弾いてみよう！』では、ピアノ未経験・初心者の学生が、ピアノ演奏できるようになることを目指しています。「ピアノに興味あったが習う機会がなかった」「保育士資格を取得したい」など、様々な学科の学生が様々な目的で参加し、レベルも様々です。前期は、月に1回は全員で集まって音楽の基礎を勉強しましたが、後期は個人レッスンを強化し、弾ける楽しさを味わって貰えるように取り組んでいます。学生は空き時間などを利用してピアノの練習に励み、レッスンに臨んでいます。ピアノの練習を通して、演奏できる喜びはもちろん、新しいことに挑戦する意欲や、諦めずに取り組む姿勢を培って欲しいと考えています。

担　当：南　多恵子（健康科学部医療福祉学科）
　　石谷　みつる（健康科学部心理学科）
　　吉川　恭子（就職支援センター）
参加者：15名

Voice

ピアノ学Boooを通して学んだことは、ピアノはいつ始めても遅くないということと、毎日の積み重ねが大事だということです。そして、取り組んで二年近くになりましたが、今でも飽きることなく、楽しく取り組めています。歌いながら弾くという作業は、不器用な私にとって簡単なことではありませんが、徐々に成長を感じられることがうれしいです。これからも頑張りたいと思います。

（健康科学部心理学科2年生）

通年 ● 体験・実習型 | さーくるK

韓国語を楽しく学ぶことにより、語学学習に拍車をかけることを、この学Booo（さーくるK）での目標としています。また、韓国の方との交流を通じ、韓国文化・歴史を学ぶことで日本人としてのおもてなしの心に磨きをかけ、グローバルに活躍できる学生を育成することを目指します。

担　当：吉川　恭子（就職支援センター）
　　小柴　優（短期大学部ライフデザイン学科コモンズ）
参加者：18名

Voice

最初はハングルが暗号にしか見えなかったのに、今ではスラスラ読めるようになり勉強するのが楽しいです。友達と楽しみながら勉強出来る環境が1番の魅力だと思います。そして、ただ勉強するだけでなく韓国人留学生との交流会やイベントを学生自身が企画することで、学年問わずさーくるKのみんなが仲良くなりました。普段体験できないことができて、入ってよかった！と思える学Boooです。

（健康科学部健康栄養学科1年生）

通年 ● 体験・実習型 日本の伝統美「和のテイスト」研究会

Voice

伝統文化に興味があり、特に十二単衣の着付けはぜひ経験したいと思い1年生から参加、着付けの前方として講座にも出させていただきました。書では平仮名や自分の名前を丁寧に書く練習ができ、静かに打ち込めて良い気分転換になります。また伝統芸術鑑賞や京都の隠れた名所旧跡も訪ねることができました。広く日本的な美しさを知り感受性も豊かにできるので、これらを活かし、社会に出ても美しく丁寧な所作を忘れず、自身を磨いていきたいと思います。

（健康科学部医療福祉学科3年生）

日本、特に京都に受け継がれる伝統文化の中にある日本人の美意識を探求し、長い歴史で醸成・洗練された和の世界を知り理解することから自身の感性と教養を高め、「和」の精神性をもった心豊かな国際人への成長をめざすことを目的として5年目を迎えた。本年度も、和装の着付けの初級として浴衣の着付けと美しい所作について学んだ。さらに十二単衣の衣紋についても講習を開始した。「書」では小筆でひらがな・自分の名前を美しく書く稽古に励んでいる。さらにはフィールドワークとして古典芸能の舞台見学を計画しており、いずれも伝統文化との出会いは、自身に内在する感性に気付く場、貴重な時間として学生から好評を得ている。

担　当：知念　葉子（キャリア形成学部キャリア形成学科）
　　中山　佳子（短期大学部ライフデザイン学科コモンズ）
　　真東　美也子（本学卒業生・旧職員）
参加者：25名

後期 ● 体験・実習型 失語症プロジェクト

失語症の方の言葉の状態や生活状況を深く知ること、また、失語症の方の社会活動への参加状況を学び、可能な支援を考え、実行することを目的として活動している。失語症の方の話しを実際に聞きに行ったり、失語症友の会や失語症者の働く作業所を見学するなど、通常の講義では得られない学びを行い、失語症者の社会活動を学んでいる。

担　当：瀧澤　透（健康科学部医療福祉学科）
　　松田　芳恵（健康科学部医療福祉学科）
参加者：19名

学Booo説明会の様子

編集・発行　2019年3月

女性キャリア開発研究センター

加藤　千恵（センター長）
関　めぐみ（センター所員）
藤谷　ゆう（センター所員）

女性キャリア開発研究委員会

加藤　千恵（センター長／キャリア形成学部キャリア形成学科／教授）
伊藤　美加（こども教育学部こども教育学科／教授）
南　多恵子（健康科学部医療福祉学科／講師）
藪添　隆一（健康科学部心理学科／教授）
橋口　美智留（健康科学部健康栄養学科／講師）（～ 2018 年 8 月）
小森　康加（健康科学部健康栄養学科／准教授）（2018 年 9 月～）
徳永　基与子（健康科学部看護学科／准教授）
吉田　咲子（キャリア形成学部キャリア形成学科／准教授）
小山　理子（短期大学部ライフデザイン学科／准教授）
関　めぐみ（センター所員／助教）
藤谷　ゆう（センター所員／職員）

Koka's Heart

よりそい 育む 一人ひとりを しっかりと

学校法人
光華女子学園

京都光華女子大学大学院
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都光華高等学校
京都光華中学校
京都光華小学校
光華幼稚園

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部　女性キャリア開発研究センター
〒615-0882　京都市右京区西京極葛野町38
TEL　075-325-5415　　FAX　075-314-4515
E-mail　careered@mail.koka.ac.jp